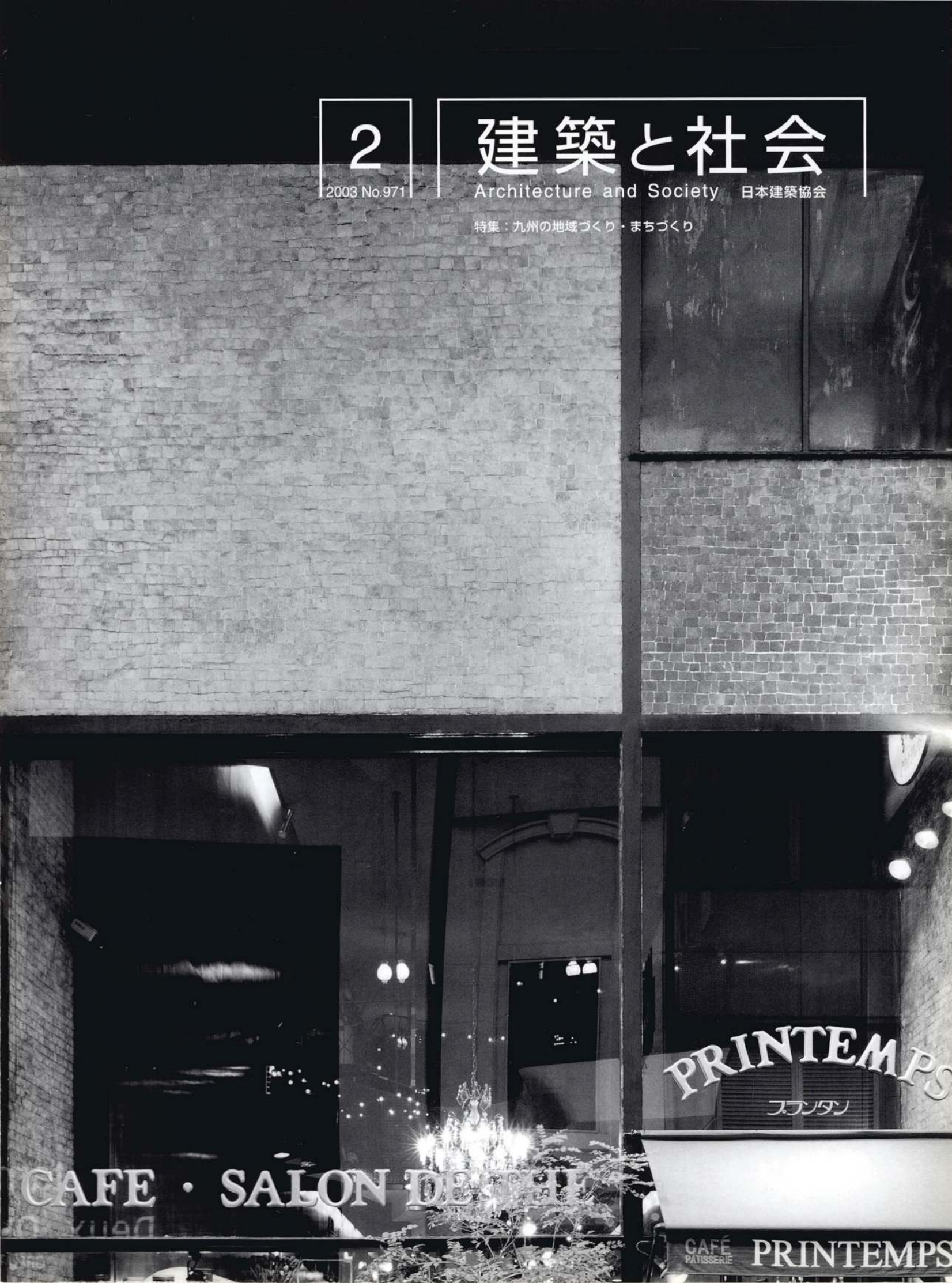
2
2003 No.971

# 建築と社会

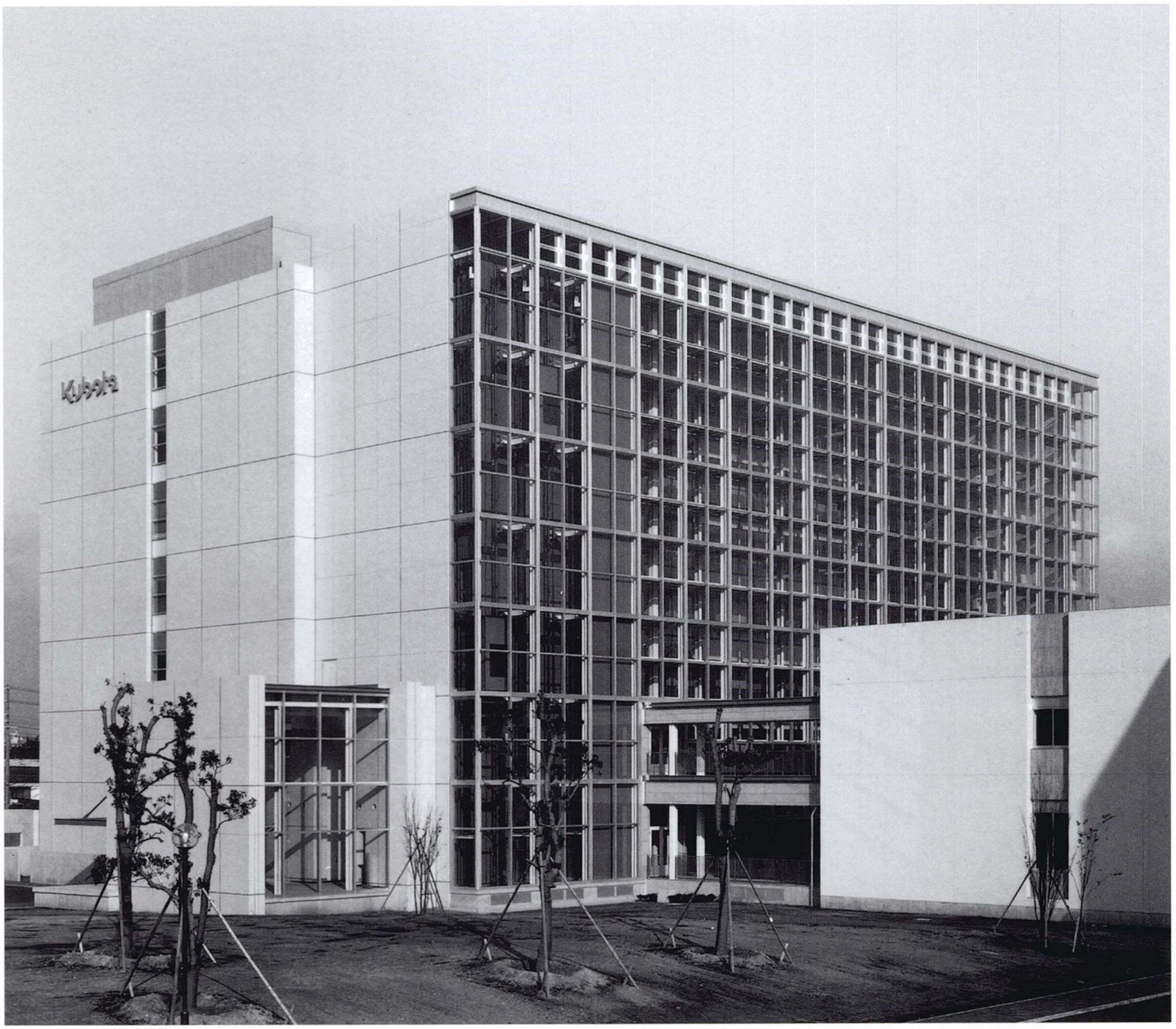
Architecture and Society

日本建築協会

特集：九州の地域づくり・まちづくり



Kubota
美しい日本をつくろう。




クボタ 本社阪神事務所
設計：安井建築設計事務所
施工：大林・鹿島・竹中・前田・クボタ建設・フジタ・佐藤
クボタ神崎建設共同企業体

株式会社クボタ

http://www.kubota.co.jp/

# 常設委員会の委員に就任し委員会活動に活躍されませんか

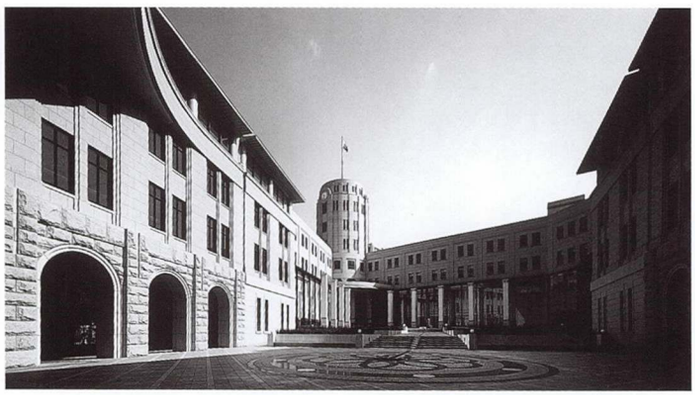
日本建築協会では、現在活動している各常設委員会の活動をより活性化するため、15年度より広く会員の中から委員希望者を募ることにしました。
会員の皆様の応募をお待ちしております。

●応募要領
★応募資格
日本建築協会の個人正会員または団体正会員に所属しておられる方
★人数
若干名（各委員会とも）
★応募の記入項目
①住所
②氏名（フリガナ）
③生年月日
④性別
⑤勤務先
⑥所属団体正会員名（個人正会員は記入不要）
⑦希望委員会名(第２希望まで記入可)
⑧連絡先等（Tel・Fax・Eメール）
⑨活動の希望がある場合はその内容
★応募の締切
平成15年３月14日（金）
★応募方法
応募記入項目①～⑨までをハガキまたはFax、Eメールにて送付願います。
（社）日本建築協会
〒530-0001
大阪市北区梅田1丁目1-3-2100
Fax：06-6348-0634
Eメール：kyoukai@aaj.or.jp
協会ホームページ(http://www.aaj.or.jp)のトップページのお問い合わせメールから送信できます。

●任期
２年（平成15年４月１日～平成17年３月31日）
●報酬
なし（ボランティア活動としてお願いしております）
●常設委員会の名称と主な活動内容
（ ）はH15.1.1現在の委員数
★編集委員会（103人）
会誌「建築と社会」の企画・編集・発行を行っています。
・編集委員会は小委員会・分科会（計８）で構成され、多数の委員がそれぞれの役割を分担し編集活動に参加しております。
★事業委員会（48人）
見学会、講演会、若い会員の集いなど、ユニークな活動を行っております。
・事業委員会には次の小委員会を設け、建築関連の幅広い分野から委員が参加し活動しています。
・見学会小委員会／古い町並み、有名建築物や新しい建物の見学会を企画・実施
・情報小委員会／建築界の新しい動向や「これからの建築と社会」をテーマとした講演会等を企画実施
・若い会員の集い小委員会／20代、30代の会員が講師を囲んで議論するなどの交流をしています。
★教育委員会（25人）
建築教育についての調査・研究、若い技術者向けの建築工事実務講習会の企画、実施，及び全国の建築系高校生を対象とした建築デザインコンクールを企画、実施しています。
・建築工事実務講習会は経験豊富な実務家の会員が講師となり講習するもので、即役に立つ講習会として若い技術者が熱心に受講しています。
・デザインコンクールは、毎年テーマを定め工業高校生の作品を募集するもので、全国から多数の優秀な作品が応募されてきます。
★ 出版委員会（17人）
建築に関する図書の企画・編集・刊行や著者を講師とした講座の企画等を行っています。
・『建築技術選書』シリーズ、『プロのノウハウ』シリーズなど多数の図書を企画、編集しており、建築関係者・技術者から高い評価を受けています。
★ 建材委員会（23人）
建築材料の検討・新建材の紹介が主な事業です。
・建材メーカーや官公庁、設計実務者、建築家、研究者などが新しい情報をもちより、情報の検討・討議を行っています。
・その情報は「建築と社会」を通じて会員に提供しています。
●備考
・常設委員名簿は14年７月号「建築と社会」p6に掲載
・会議の回数及び時間等については、会誌「建築と社会」各号協会月間の動き及び協会ホームページの委員会の動きを参照

応募者多数の場合は、当該委員会において調整することになりますので予めご了承お願いします。

# 近代建築見学会
第13回
# 神戸税関



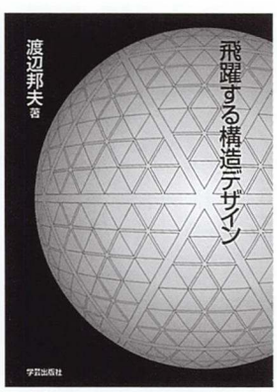
神戸、三宮よりフラワーロードに沿って海岸通りに向かったところに、昭和2年に建てられた神戸税関がある。その存在はよく知られた建築であったが、一般にはあまり接点のない建物であったようだ。それが平成10年に、10階建ての新棟を含む大規模な増築再生がなされ、この地域のランドマークとして蘇っている。当初の外観を保存活用した計画、新旧のコントラストを表現した中庭側の扱いなど、さまざまな再生デザインが織り込まれた事例として注目されている。今回、その設計を担当された川島氏を迎えて、現地での説明をうけ、普段非公開部分も含めてご案内いただきます。　(山形政昭)



●建築概要
所在地　神戸市中央区新港町12-1
設計監理　国土交通省近畿地方整備局営繕部
　日建設計
施　工　東急・前田・新井JV
敷地面積　10,228.50㎡
建築面積　5,231.94㎡
延床面積　24,144.61㎡
構造規模　S・SRC・RC、B1F・10F・P4
工　期　1996年4月～1999年3月

日　時　2003年3月5日(水)
　14:00―15:30
講　師　山形政昭／大阪芸術大学教授
　川島克也／日建設計設計室長
集　合　現地／神戸市中央区新港町12-1
　＊「三宮駅」南へ徒歩約10分
定　員　25人
　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 1,500円
　＊税込
申　込　2月26日(水)までに
　①催し名：神戸税関見学会
　②氏名
　③個人会員・団体会員・一般の別
　④職場・学校名
　⑤参加証郵送先
　⑥連絡先電話番号
　を添えてお申込み下さい。
　＊参加証を2月27日(木)に
　　発送します。
申込先　(社)日本建築協会事業課
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　〒530-0001
　TEL.06-6348-0633
　FAX.06-6348-0634
　メール. jigyoka@aaj.or.jp
主　催　(社)日本建築協会
　事業委員会見学会小委員会
担当主査　小林一成／鴻池組

出版委員会企画
第26回<プロのノウハウ>講座
# 飛躍する構造デザイン




企　画　(社)日本建築協会
著　者　渡辺邦夫
発行所　(株)学芸出版社
発行日　2002年9月20日
体　裁　A5判176頁
定　価　本体2,200円＋税

日　時　2003年3月22日(土)
　15:00―18:00
会　場　学芸出版社3階ホール
　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
　＊JR京都駅より徒歩5分
講　師　渡辺邦夫氏
　(株)構造設計集団(SDG)代表
定　員　80人
受講料　会員 3,000円、一般 4,000円
　学生・院生 2,000円　＊税込
テキスト　『飛躍する構造デザイン』
　テキスト代　特価2,000円
　＊税込
　＊当日ご持参の方は不要。
申　込　本会事業課へ下記事項を添えてお申込み下さい。
　先着順で受講票を送付します。
　①催し名：プロのノウハウ講座26
　②氏名
　③会員・一般・学生の別
　④職場or学校名
　⑤受講票郵送先所在地
　⑥連絡先電話番号
申込先　〒530-0001
　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　大阪駅前第3ビル21階
　(社)日本建築協会事業課
　TEL.06-6348-0633
　FAX.06-6348-0634
　メール. jigyoka@aaj.or.jp

渡辺邦夫さんは、東京国際フォーラム・幕張メッセ・横浜港国際旅客ターミナルをはじめ、台湾・韓国でも大型建築物を設計されてきた構造設計界の第一人者です。
このたび、『飛躍する構造デザイン』(学芸出版社刊)の著書を出版されたのを機にして、ご本人の豊かな経験談をふまえた構造哲学的な「構造デザイン論」の講演会(スライド併用)を京都で催すことになりました。
渡辺さんは「構造設計の本質はトータルバランスと設計者のエネルギーバランスにある」と喝破、明快率直な構造論を平易に展開されています。
関西の構造設計者・構造に興味を示される学生・院生の皆様方に、この講演会をぜひともお聞きいただければ、ほんとうに嬉しいです。皆様方のご参加を心よりお待ちいたしております。
出版委員会顧問／山田　修(修建築事務所)



渡辺邦夫(わたなべ　くにお)
1939年東京生まれ
1963　日本大学理工学部建築学科卒業
　横山建築構造設計事務所に入社
1964　木村俊彦構造設計事務所に入社
1969　独立後、構造設計集団(SDG)を設立、現在に至る
構造設計監理の主要作品に、武蔵学園(81年)、日本コンベンションセンター(89年)、海の博物館(92年)、東京国際フォーラム(96年)、幕張メッセ北ホール(97年)、富山県福祉会館(99年)、札幌メディアパーク(00年)、韓国ウルサン市サッカースタジアム(01年)、横浜港国際旅客ターミナル(02年)など。

渡辺邦夫＋構造設計集団<SDG>
## 展示会同時開催
会　期　2003年3月17日(月)～28日(金)
会　場　学芸出版社1階ギャラリー
詳細は本号information欄p39に掲載

# 建築と社会 2 2003

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第84集／通巻971号


今月の表紙

表紙デザイン／田村昭彦
企画／倉渕奈千子
建築写真／河合止揚

●プランタン

設　計／村野藤吾
施　工／大成建設
竣　工／1956年
所在地／大阪市中央区心斎橋筋

●赤いテントとサインが新しくなり、入口の印象が少し変わりましたが、籐と木質合板の濃い茶色が基調のインテリアは、ほぼ往年のまま。回り階段のスチール手摺はペンキを塗り重ね大切に使われています。3層の細長いフロアはお茶を楽しみ談笑する人たちで埋まり、閉鎖されたそごうとは対照的な、華やかな生き生きとした時間がここにはあります。　（倉渕奈千子）

■特集予告

3月号／東海支部会員作品
愛知・名古屋―文化、産業と建築を振り返る―

4月号／サスティナビリティ
～次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン～


編集委員会（平成14年度）

■副会長　※河井　康人
佐野　吉彦　河津　隆之
奥謝野　久　近藤　国夫
■編集担当理事　近藤　正一
井上　豊　田ノ畑好幸
上原　正行　桝井　貴廣
岡田　聿之　丸山　和夫
◎設楽　貞樹　村上幸三郎
竹中　統一　山根　敏和
畠山　祐治　□施工材料分科会
広原　盛明　植田　実
堀田　修二　小椎八重猛
松村　慶三　※竹中　秀文
■特集小委員会　太刀川丈爾
□計画分科会　平野　剛
★計画系　横山　芳幸
伊縫　憲幸　吉田　正友
梅田　善愛　□法令分科会
小浦　久子　※薄木　三男
※鈴木　克彦　大原　幸三
田中　直人　岡本　哲夫
紅谷　昇平　田村　俊郎
細田　浩史　中島　和也
松田奈緒子　溝上　省二
松本　正行　■作品作風小委員会
吉村　英祐　赤木　隆
★建築計画系　淺尾　宏
荒木　宏之　朝倉　一晃
江副　敏史　居内　章夫
菅野　忠司　池上　明
小林　優子　井上　雅祐
桜井　則雄　川上比奈子
笹村　欽也　△倉渕奈千子
静　茂夫　寺岡　宏治
所　千夏　中村　文紀
※野田　隆史　林　孝司
三村　和生　前川　治彦
★インテリア・住宅系　増田　敬彦
加藤　力　増田　俊哉
小梶　吉隆　山田　俊紀
佐藤　勝紀　■会員企画小委員会
田中　浩介　稲木　裕子
※高野　直樹　大谷由紀子
西田　和子　河崎　敦子
ベリー史子　清水　麗子
本山　仁　△髙岡　伸一
□構造分科会　髙田　光雄
大氏　正嗣　辰巳　清一
大音師　靖　塚口　明洋
大住　和正　辻川ひとみ
尾上　清治　福田　瑞穂
金田　興熙　■広告企画小委員会
木下　隆嗣　荒本　俊明
白沢　吉衛　大迎　敏樹
住田　隆二　小幡　義明
田中　剛　小山　昭
※田渕　勝道　斉藤　治久
松村　和夫　田渕　博昭
向井　洋一　竹内　健介
吉川　真次　林　一彦
□設備分科会　古畑　健一
今井　泰司　前田　衛
梶井　宏修　△渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事



印　刷　2003年1月25日
発　行　2003年2月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　話　06-6348-0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定　価　1200円〔本体価格1143円〕


# CONTENTS


特集●　**九州の地域づくり・まちづくり**

[福岡県]　「シリコンシーベルト福岡」プロジェクト ―― 18
[佐賀県]　鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業 ―― 20
[長崎県]　ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想 ―― 22
[熊本県]　ユニバーサルデザインによる21世紀の熊本づくり ―― 24
[宮崎県]　ひむか歴史ロマン街道形成構想 ―― 26
[沖縄県]　人にやさしい「ゆいレール」をめざして ―― 28
[大分県]　第20回全国都市緑化おおいたフェア ―― 30

会告　常設委員会の委員に就任し委員会活動に活躍されませんか．近代建築見学会⑬神戸税関．出版委員会企画㉘〈プロのノウハウ〉講座／飛躍する構造デザイン　1

作品作風　クボタ　本社阪神事務所　4
神戸国際ビジネスセンター　8
DO BOX（ディオ・ボックス）　10

九州の作品　晴明教総本部事務所　12
梅の花大分店　13

gallery　内路地のアトリエ―都市居住の空間作法―（平尾和洋＋早崎伸一／VIDZ）●林　孝司　14

建築の眼　16
建築環境工学における環境設計●森山正和
中国の民居から思うコト●千葉桂司
24時間止まらない発熱●大高一博
ヴァレリー「ユーパリノスあるいは建築家」（審美社1973年刊）●樫原健一

法令コーナー　法善横丁への連担建築物設計制度の適用●森岡哲生　33

構造の頁　SM-Jパイルを用いた超近接施工例●芦原康裕　34

設備の頁　BEMSの概要と省エネルギー●川又英生　35

研究最前線を追う　視覚特性に基づいた視環境設計法●関西大学建築環境工学第Ⅱ研究室　36

やさしいケンチク数学ばなし　0ものがたり●山田　修　37

REPORT　文化財建家における学ぶかたち●三軒　齋　38

information　渡辺邦夫＋構造設計集団〈SDG〉展示会．公開セミナー「犯罪に強い住まい・街づくり」．アイカ現代建築セミナー．IMI Festival 2003．産業技術史講座・世界に類のない日本の「工業化住宅」．「石井修を囲んで」．吹田の「西尾家住宅」のいま．「樋口文庫」開設．英国ロマン主義絵画展―兵庫県立美術館―．第4回「人間サイズのまちづくり賞」受賞者決定―兵庫県―　39

月間の動き　平成14年12月分　41

作品風

設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
大林・鹿島・竹中・前田・クボタ建設・フジタ・佐藤
クボタ神崎建設共同企業体

# クボタ 本社阪神事務所





クボタ神崎工場の跡地を、「地域に配慮した快適な環境作り」をテーマとして、新たに計画する業務棟・研究棟・厚生棟・研修棟という機能の異なる４棟の施設を、有機的で機能的に計画し、緑豊かな環境として再生する計画である。

メインアプローチは敷地北側道路中央部分とし、その正面に施設全体のエントランスとなる７階建の業務棟を配置。南方向にセットバックさせることで、北側の前面道路に対して圧迫感を軽減し地域にやさしい計画としている。他施設へは業務棟南側の７層吹き抜けのアトリウム（ビオトリウム）から渡り廊下で容易にアクセスできるよう構成。このビオトリウムは自然を立体的に取り込むことで安らぎと快適性、様々なコミュニケーションを生み出す、環境作りを具現化した空間である。

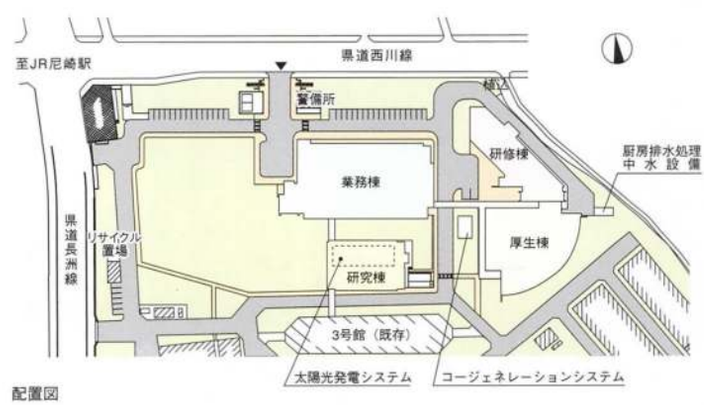
ビオトリウム外装はダブルスキンとし、熱遮断を行うとともに、その内部には足元から外気を取り入れ、上部で排気を行うエアフローダブルスキンのシステムを採用。点検歩廊を兼ねたグレージングの庇を内蔵することでビオトリウムへの直射日光が遮られ、柔らかい光が注ぎこんでいる。ベンジャミンや屋外的な仕上げにより、自然を立体的に取り込むことで安らぎを意識した快適な環境作りを目指している。快適な空間は昼間だけではなく、夜間にはアトリウム全体のライティングデザインで、間接光により柔らかくライトアップされる魅力的な空間が形成されている。

また、土を出さないエコパイル、ダクパイルの基礎杭や太陽光発電パネルの採用および下水沈殿物を再利用する溶融灰タイルを歩道に使用するなど環境への配慮を積極的に行っている。こうした快適な環境への提案や配慮が、これからの社会への情報発信源となり、働く人々にエネルギーを与えてくれる場となることを期待している。

（安井建築設計事務所）



所 在 地 —— 兵庫県尼崎市浜1-1-1
敷地面積 —— 46,478.90㎡
建築面積 ——  5,892.00㎡
延床面積 —— 18,687.13㎡
構造規模 —— 業務棟：SRC（一部S）、7F、P1
研究棟：RC、2F
厚生棟：RC（一部S）、1F
研修棟：RC、4F、P1
警備所：RC、1F
工　　期 —— 2001年８月～2002年10月
最 寄 駅 —— JR神戸線・尼崎駅
撮　　影 —— 伸和



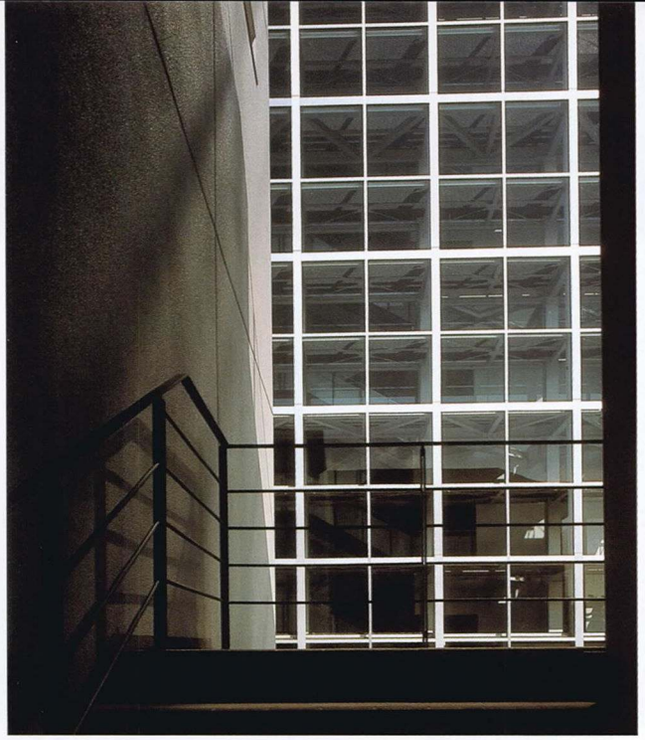
配置図

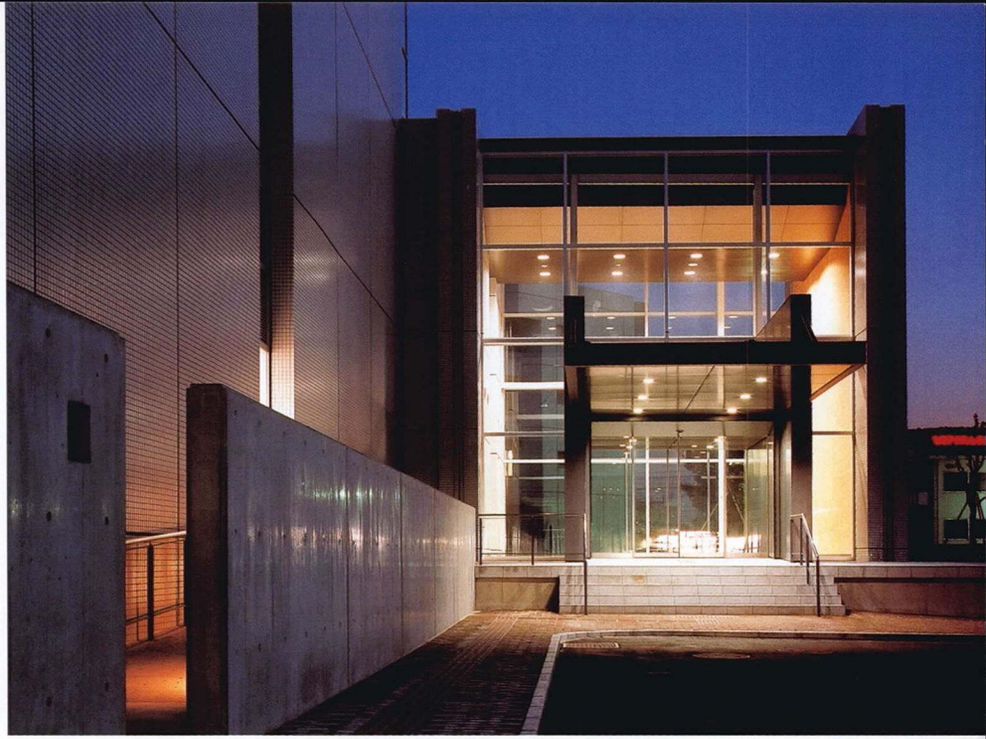


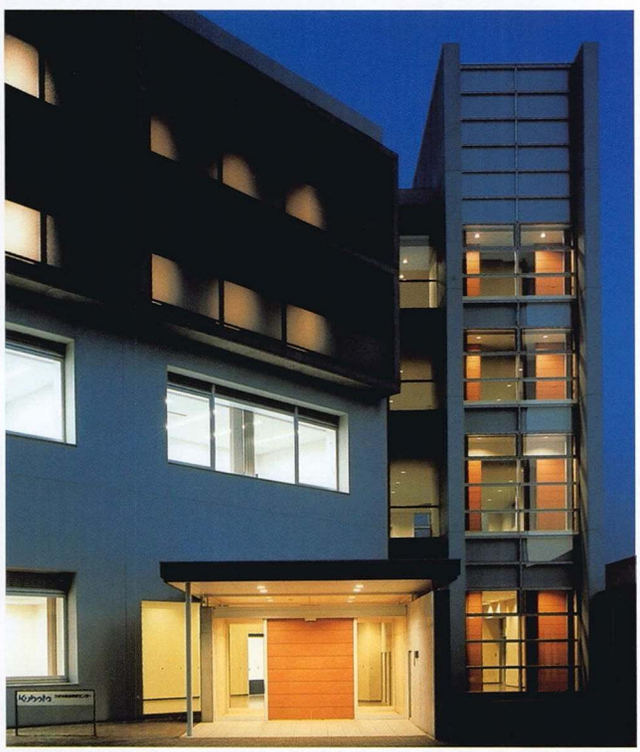




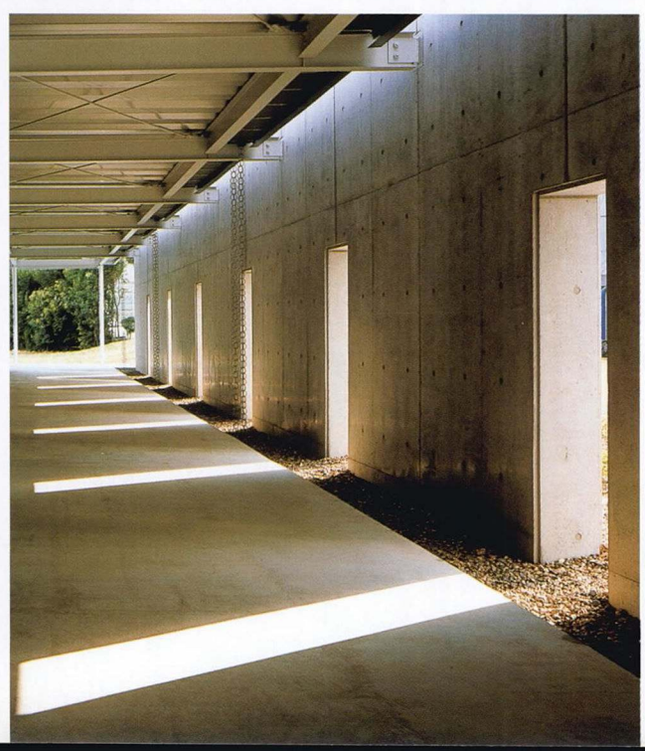














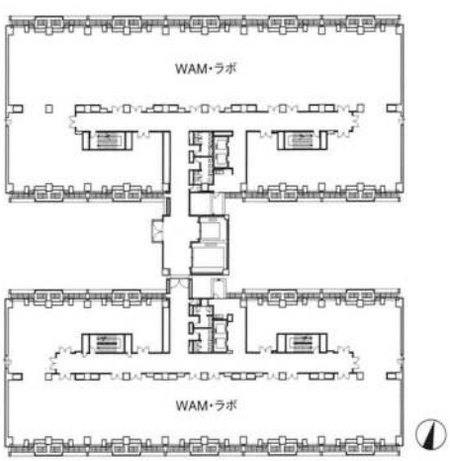
作品

設計・監理■
鹿島・前田・丸正特定建設工事共同企業体

施工■
鹿島・前田・丸正特定建設工事共同企業体

# 神戸国際ビジネスセンター

本施設は新産業分野において高い技術力を持つ外国・外資系企業の神戸への誘致を推進するための拠点施設として、ポートアイランド第２期の中核に計画された多機能テナントビルである。
WAMスペース、実験のためのラボスペース、営業・流通・事務管理のためのオフィスが２フロアずつ積層され、研究開発から試作品の製造、製品のプロモーションまでといったビジネスの流れを一つの建屋の中で効率的に進めることができる。
外部にはメカニカルバルコニーが設けられており、層間区画処理を伴わないユーティリティー配管やダクトの新設、空調設備の増強がテナントの要望に応じてフレキシブルに行える。このバルコニーを文字通りメカニカルな表現とすべく、丸穴の開いた目隠しVFRC版［軽量繊維補強コンクリート］やPCフレーム、アルミパネルなどによる特徴的な外皮（ダブルスキン）デザインとしている。
シンボル樹のヤマモモを中心に豊かに植栽された街角広場から車寄せ・エントランスホールへと至るアプローチ空間や南北２棟の狭間にデザインされた竹・白砂・水盤で構成されたミニマルな中庭など、パブリックスペースは海外からの賓客を迎えるにふさわしい空間的クオリティーを持つ。　（塩見浩一郎／KAJIMA DESIGN KANSAI）
※WAM(Warehouse：倉庫、Assembly：組立、Manufacturing：製造)



基準階平面図　1：1200

所 在 地 ―― 神戸市中央区港島南町5-5-2
敷地面積 ―― 9,999.16㎡
建築面積 ―― 4,042.82㎡
延床面積 ――20,096.35㎡
構造規模 ――RC（プレストレスト構造）、６F
工　　期 ――2000年４月～2002年５月
最 寄 駅 ―― ポートライナー・市民広場駅
撮　　影 ――新名　清（エスエス大阪）

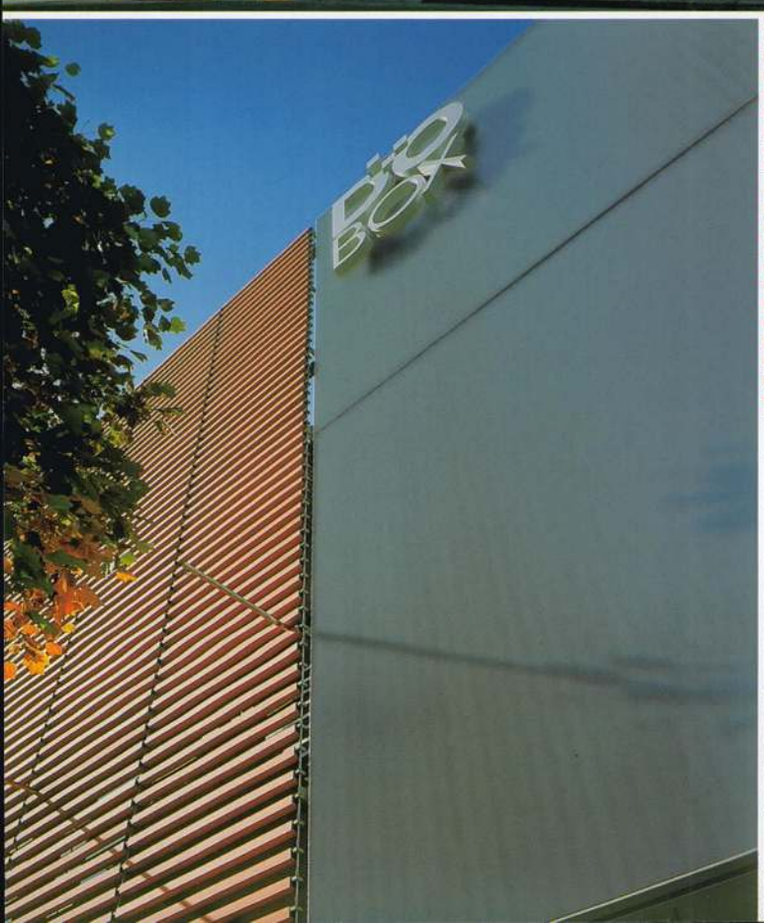









DO
BOX


DO
BOX


DO
BOX
Parking
Company

作品風作

設計・監理■
竹中工務店

施工■
竹中工務店

# DO BOX（ディオ・ボックス）

この建築は、72台収容のタワーパーキングと４つの飲食店が入る複合ビルである。敷地は、芝居町として名をはせ、古くから独特の文化を発信してきた道頓堀の東の玄関、「東櫓」に位置する。“歴史性と新規性の両面を併せ持つ建築こそ東櫓に相応しい”これが、先代よりこの地を守る施主の強い想いであった。

“古くて新しいもの”、“強くて柔らかいもの”、“芝居町の風情が出せるもの”、“メンテが簡単”、“窓拭きくらい自分達でやれるように”、…そんなキーワードを軸に施主との議論を重ねる中、早い段階で外装をダブルフィルターにすることが意識づけられていた。ダブルフィルター外装は、様々な面で環境負荷を軽減し、LCC的側面から施主へ利益を与える。それは、日本の伝統的建築様式が持っていた縁空間の効用を都市において甦らせることでもある。

そして、施主の想いは、タイルメーカーや橋梁会社の個性豊かな技術者との出会い、コラボレーションを通して、1,800mmという他に例のない長さを誇る中空テラコッタと建築構造用圧延棒鋼の組合せによる、日本で最初のテラコッタ吊りロッド工法のルーバーシステム実現へと昇華した。

吊り構造の解析には、橋梁用に開発された有限変位解析を使用している。これにより、ルーバー面に加わる風や地震等の水平力及び多数のルーバー自重に対し、小さな断面でロッド部材全長にわたり、巧みに引張り材として力を本体構造に伝達することができる。言葉で表現すれば、“柳に風の如し”である。これが、長さのみならず、色合いや風合いに工夫に工夫を重ねたテラコッタと共に、柔らかな外観の形成に大きく寄与している。

テラコッタの皮膜は、昼景では内外空間の柔らかな境界面を構成し、夕景では内部のアクティビティーをほのかに映し出す1枚の紗幕となる。そして、各々に存在感を持つ素材達が木にも通ずるテラコッタの優しい表情と出会い、かつて「五座の櫓」と呼ばれた芝居町の表情を現代を生きる我々の心に甦らせる。

DO BOX―道頓堀岡嶋ビルが道頓堀のみならず、大阪ミナミの新しい名所となることを願っている。

（梅田善愛／竹中工務店）

所 在 地 ――大阪市中央区道頓堀1-2-1
敷地面積 ――1,028.54㎡
建築面積 ――　819.52㎡
延床面積 ――2,904.53㎡
構造規模 ――S・RC、3F
工　　期 ――2002年3月～2002年11月
最 寄 駅 ――地下鉄堺筋線・日本橋駅
撮　　影 ――庄野　啓








作品
作風
九州の作品

設計・施工■
竹中工務店九州支店

# 晴明教総本部事務所

宗教法人晴明教は国内外を合わせ90カ所以上の支部を持ち、その中心となるのが福岡市の総本部である。敷地は小高い山の中腹にあり面積は約60,000㎡。眼下には博多湾を望み、玄界灘の水平線が広がっている。

建物用途として事務所機能に加え、食堂、集会所および礼拝の場である「御神前の間」、さらに教会奉仕者の研修室、及び会員のための宿泊室、浴室、洗濯室、洗面所といった生活の場としての諸室も配し、そのような多用な機能を互いの空間の連携性を保ちながら、フロア構成と動線処理によりシンプルなプランとしてまとめた。

外観は、自然環境と境内の他の施設との調和を図りながら、総本部としてふさわしい威厳性を持たせ、存在感のある建物とした。内部においては、吹抜を持つエントランスや中庭によって信仰的な意識の高揚を高める空間を創出すると同時に、眺望に考慮した食堂や談話スペースなど日常の生活に癒しを与える空間をとり入れた。

（清水　章／竹中工務店九州支店）

所 在 地 ―― 福岡県福岡市東区唐原6-7-1
敷地面積 ―― 53,688㎡（16,240坪）
建築面積 ――  1,095㎡（  331坪）
延床面積 ――  2,096㎡（  634坪）
構造規模 ――SRC・RC・S、B1、2F
工　　期 ――2000年2月～2000年11月
最 寄 駅 ――JR九州鹿児島本線・九産大前駅
撮　　影 ――ナガノコンサルタント





PHOTO上より：中庭に取り囲まれた階段／エントランス夜景／正面全景



設計・施工■
竹中工務店九州支店

# 梅の花大分店

「月と竹の物語」をテーマに、季節を問わず“美しい緑と静寂さ、風のざわめきを感じる”ことのできる自然な杜の中の豆腐料理店をイメージして、設計を行った。
正面路を通り抜け、客席に向かうアイランド状に配置されたアプローチ空間の演出は、非日常的な食文化への期待度を、より高める効果があった。小部屋と小庭との一体感のある食空間も含めて、郊外商業施設としてのアメニティのあり方を提案した店舗である。

（片岡照雄／竹中工務店九州支店）

所 在 地 —— 大分県大分市明野西1-1-2
敷地面積 —— 3,700㎡（1,119坪）
建築面積 ——　529㎡（　160坪）
延床面積 ——　498㎡（　151坪）
構造規模 ——S、1F
工　　期 ——2000年7月～2000年11月
最 寄 駅 ——JR日豊本線・大分駅　車で8分
撮　　影 —— エスエス九州





PHOTO上より：モウソウ竹林のアプローチ空間／中庭を眺めるカウンター席
築地塀とモウソウ竹越しに見える入母屋式の日本瓦屋根





gallery

# 内路地のアトリエ
## ―都市居住の空間作法―

設計

**平尾和洋＋早崎伸一／VIDZ**

一般的に「京町家」は快適な都心居住を可能にする建築様式として歴史的評価の高いスタイルである。「鰻の寝床」と呼ばれる細長い敷地に対して、ミセノマ（商業空間）を表通り側に、居住・接客空間を中央に、中庭をはさんで蔵・離れ・ユーティリティーを奥にとる。

残念ながらこの秀逸な伝統遺産は現在でも日々取り壊され、青空駐車場などに取って代られている。我々の仕事も、既に町家破壊後の更地を前にして依頼されることが多いのであるが、設計をしてみると実に失われた筈の町家から学ぶことは多い。狭くひしめき合う土地に商業・工業・居住機能＋２台以上の駐車スペースを高容積に計画する。ある程度の密度をもち、かつプライバシー確保と環境的クオリティーの実現が求められる。さらには法的制約＋京都人独特のアタラシイモノ好き（つまり現在の材料を使って伝統を再現するパラダクシカルな嗜好）が要請される。こうした難題を前にした時、やはりいにしえの人々の知恵にヒントを得ることは多い。

こうしたことは、土地状況や地域性も踏まえた風土性、あるいは都市構造自体が持っている要請といったものに突き動かされた結果と言える。通り庭を再解釈した「内路地」や奥に入り組んだ「ミセノマ」、居住階（3F）の「ライトウェル（光井戸）」などが我々の空間作法である。

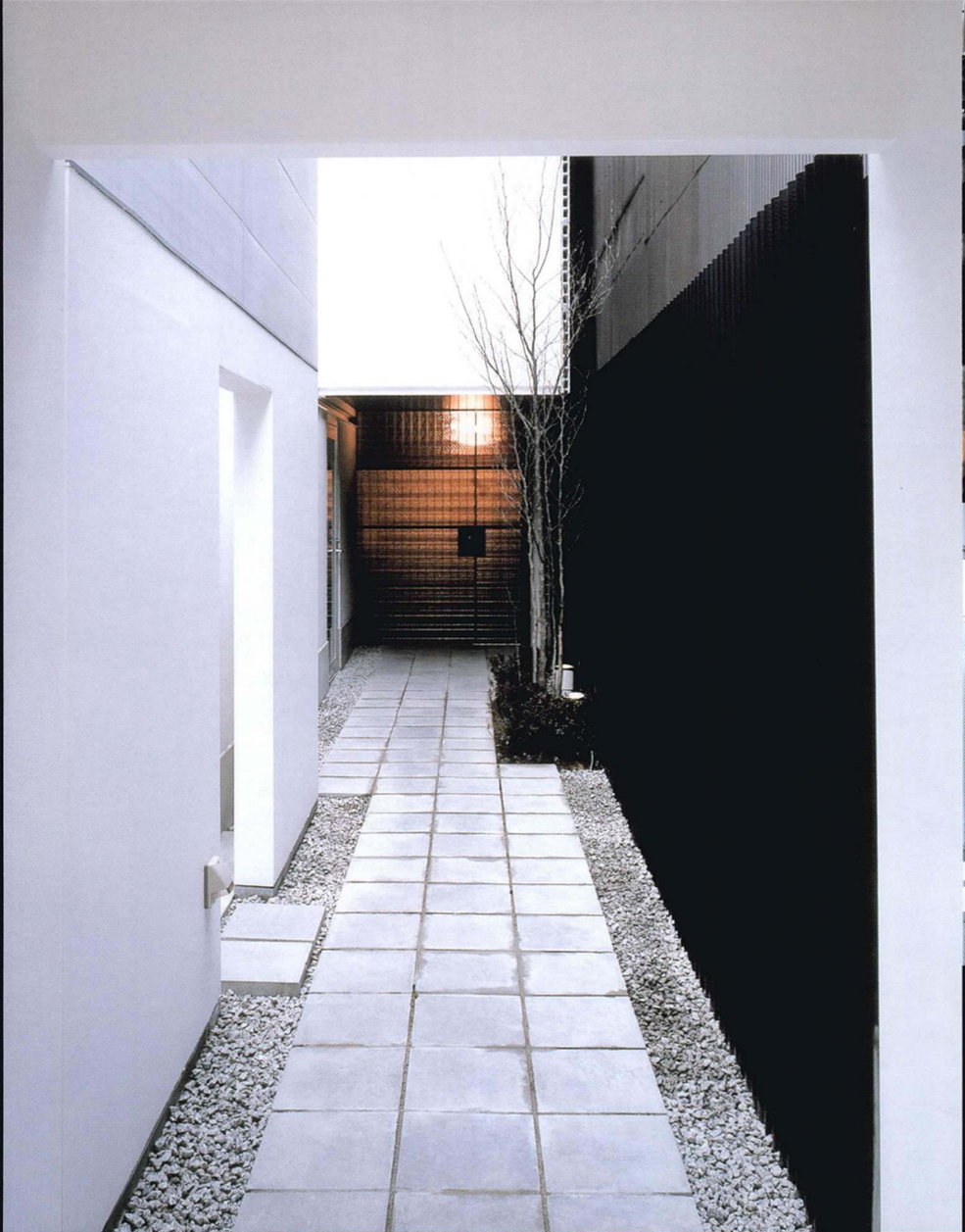
更にこうした京都マナーともいえる「小世界を切り取る」空間は、ますます狭小敷地化しつつある日本の他都市のプロジェクトでも、一定の開放性と閉鎖性をもった「インナーテラス」「クローズドバルコニー」などの提案として展開可能な普遍性を有している。

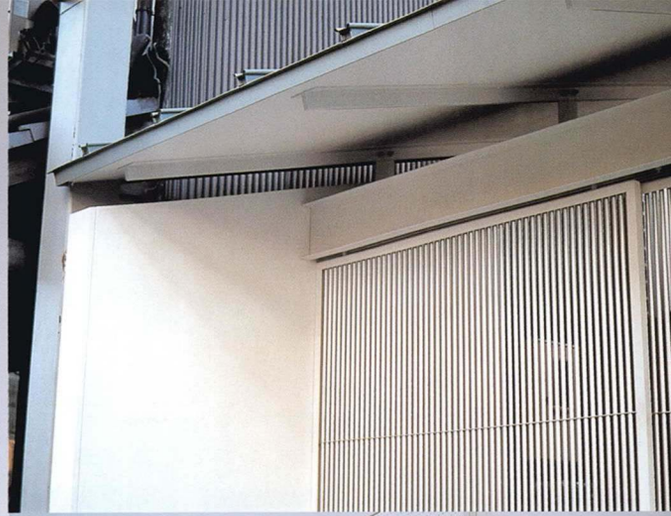



ひらおかずひろ
平尾和洋
1966　大阪生まれ
1992　京都大学川崎・竹山研究室助手
1998　立命館大学助教授

はやさきしんいち
早崎伸一
1966　長崎生まれ
1998　VIDZ／ヴィズ建築設計事務所主宰

撮　　影―広瀬　徹
企画編集―林　孝司（作品作風小委員会）

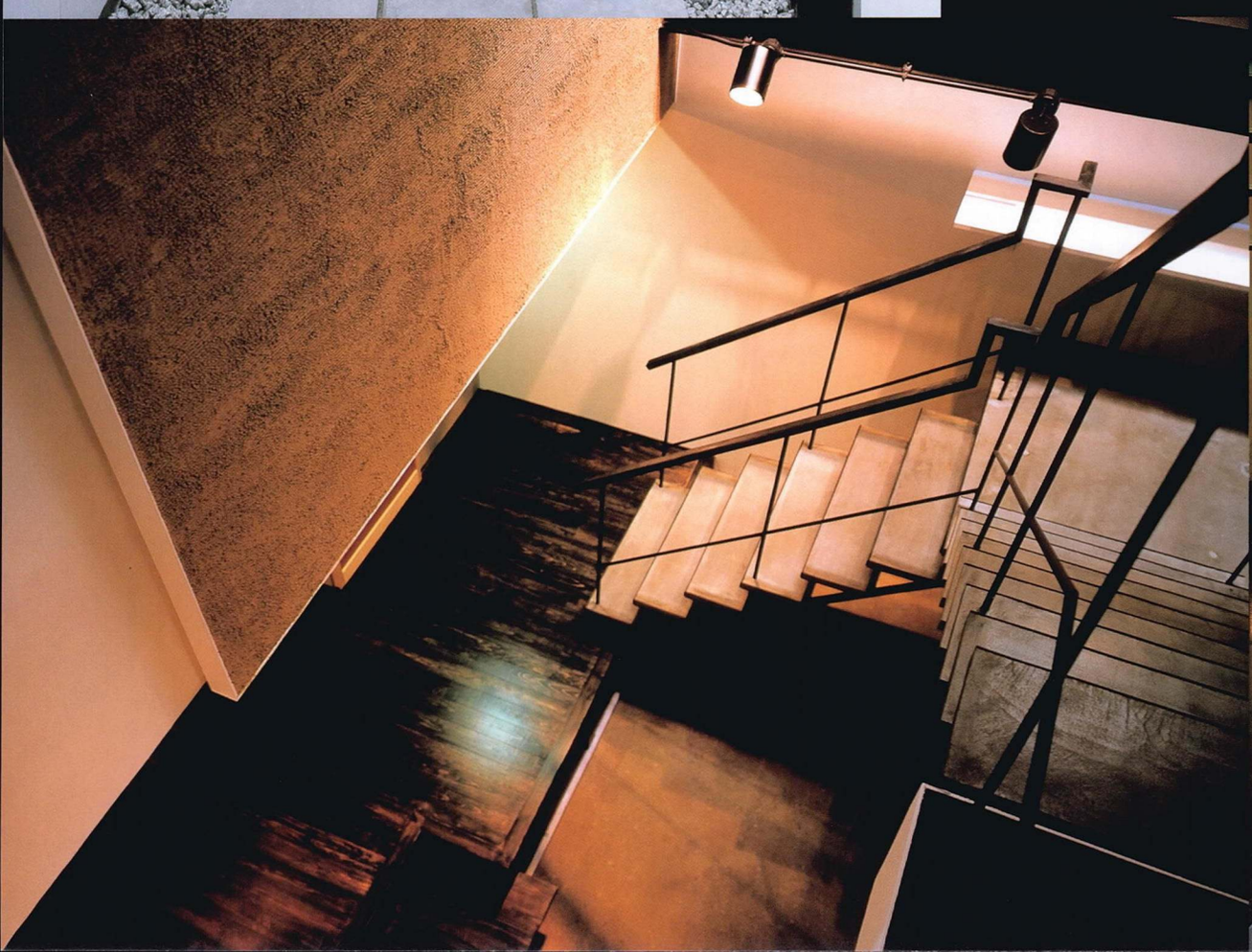









① 内路地
② スクリーン
③ ライトウェル
④ ミセノマ
⑤ 土間
⑥ 大波ガラス扉





## 建築環境工学における環境設計

森山　正和

現在、日本建築学会環境工学委員会において環境設計小委員会の主査を務めている。この小委員会では「環境設計」を環境要素（音、振動、光、熱、空気、水など）別の分析的研究の成果が、横断的、総合的に活かされて行われる建築・都市環境の設計プロセスであると定義している。この意味で環境設計は、研究と実践をつなぐ架け橋であり、それ故、実践の方法が重要である。

三浦昌生委員（芝浦工大）によれば、その一つは建物用途と環境要素の関係を整理しておくことであり、クライアントが望む建築について、そのイメージを優れて豊かなものとするため、クライアントに対する建築教育が大切であると主張されている。クライアントのための設計資料集成の必要とされる所以である。また、並木裕委員（大成建設）は、「環境工学」と「構造設計」、「意匠設計」、及びその他の関連分野との関係が常に協力的となるような協調システムを作っておくことの重要性を主張されている。それぞれの立場から他分野にまたがる課題を満たす解決が必要とされるからである。

前月号に取り上げた都市環境クリマアトラスにおいても環境工学と都市計画の共同作業があってはじめて有効に機能する。環境設計は元来が実践から認識されてきている。

神戸大学工学部建設学科教授

## 中国の民居から思うコト

千葉　桂司

もう少し街歩きの事を話したい。

この数年、中国の街と民居を見る機会が多い。福建省の漢族・客家（はっか）の要塞のような円形土楼から始まり、上海に近い江南の水郷集落、北京の有名な四合院と胡同（ホートン、街路あるいは路地）が作る下町、そして雲南省・白族の三坊一照壁（四合院の１辺が白壁形式の民居）やナシ族の街・麗江などなど、広大な中国の地方地方には今猶、独自の生活様式から生み出された様々な民居があって楽しい。どの集落や街なかにも、墨絵に出てくるような素朴な瓦屋根と土壁そして石畳のくねった路地があり、様々な構成・構造をもって集合している町の姿は魅力的だ。

そんなことを思っていたら、滋賀県のある町で建築家ヴォーリス設計の小学校が壊されそうな新聞記事が眼についた。私自身はその建物を見ていないし経過も十分知らないが、少なくとも地域が誇りとする歴史的な文化遺産を、裁判所の解体工事差し止めにも拘らず、行政自らが解体を強行するなど、今時信じられないことだ。逆にこうした文化的価値を継承して、まちづくりに活かすことこそが今、大事なことではないか。中国民居とその集落も、時代の流れに飲み込まれていくかもしれないが、しかし人が住み独自の歴史と文化を継承した集落や街が、世界中から大勢の人たちを惹き付ける事実を重く受け止めるべきであろう。

都市基盤整備公団関西支社副支社長

## 24時間止まらない発熱

大高　一博

IT化によって「発熱するようになった建築」の最大の特徴は、発熱が24時間ベッタリと続くことである。以前のオフィスはOA発熱といっても昼のオフィスアワーが中心で、夜にはOA機器が停止した。しかし、サーバーを始めとする今日のネットワーク機器は、夜も止まらないものが多い。数年前からオフィスのEPS（電気の縦配管を入れるところ）にサーバーが置かれるようになったが、このスペースの専用冷房は24時間止まらない。オフィスにも机に一台パソコンが当たり前になったが、昼間に机を離れたり、夜帰るとき、いったいどれほど電源が切られているのだろうか。

我が家も喜んでADSLを引き込んだが、インターネットの「常時接続」となると、モデムもルーターも常時ON、パソコンも通信にお金がかからないから長時間ONになりやすい。ためしにモデムとルーターの消費電力を調べてみたら合計で約20W、ノートパソコンの方は最大50Wであった。パソコンは切っても、モデムやルーターは24時間つけっ放しだから２日で約１kWhにもなる。まして家族がどれほどパソコンを切ってくれているのか、と考えたら急に電気代が不安になってきた。

そもそもインターネット常時接続が常態化する生活というのは、パソコンを始めとするOA機器も24時間常時電源入れっぱなしを意味する。一つ一つの消費電力は小さくても機械がたくさんあって、なかなか止めることができない。せっかく世の中の家電製品が待機電力の削減に努めても、これを上回る強敵が現れたことになる。このようにしてオフィスビルも住宅もその内部からいつもジワジワと暖められるようになってきている。

日建設計大阪設備統括部長

## ヴァレリー「ユーパリノス あるいは建築家」（審美社　1973年刊）

樫原　健一

ポール・ヴァレリーは20世紀初頭に活躍したフランスの詩人である。稀代のレトリシャンと呼ばれる（佐藤信夫「レトリック感覚」）ヴァレリーは博覧強記の思想家でもあり、彼の残した膨大なノートはダ・ヴィンチの手帖に匹敵するほどの豊富なアイデアに満ちているという。そのヴァレリーがギリシャ哲学者の対話という形で建築家論をぶつ。ソクラテスとその弟子パイドロスが冥界で対話するという着想も面白いが、建築のすばらしさを語るヴァレリーの筆が生き生きとしており、躍動感あふれる建築書となっている。

現在の日本でこれほど生き生きと建築を語ることのできる人がどれほどいるだろうか？という嘆きが思わず出てくるほどに、1920年代のヨーロッパは躍動していたのだろう。目に見えるいっさいのものは次の３通りの生産方式から生まれる：偶然・盲目的な生長・人間の作品。人間の作品のうちで最も完璧なものが建築であるとヴァレリーはいう。そしてユーパリノスというギリシャ人建築家の言葉として以下の言葉を引用する。「建築することによって、ぼくはぼく自身を建築したような気がする」。「ユーパリノス」は故・森田慶一博士が自著「建築論」（東海大学出版会）の中でも紹介している建築の優れた古典である。

(株)鴻池組建築本部エンジニアリング部長

特集

# 九州の地域づくり・まちづくり

我が国を取り巻く未曽有の経済不況が厳しさ増す今、建築界は混迷の一途をたどっています。そうした状況下、少しでも元気のある明るい話題をと、視点を西へ向け、九州各県の担当部署のご協力を得て、豊かな風土性を活かした各県の地域づくり・まちづくりを紹介したく、特集を企画いたしました。

福岡県
「シリコンシーベルト福岡」プロジェクト
佐賀県
鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業
長崎県
ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想
熊本県
ユニバーサルデザインによる21世紀の熊本づくり
宮崎県
ひむか歴史ロマン街道形成構想
沖縄県
人にやさしい「ゆいレール」をめざして
宮崎県
第20回全国都市緑化おおいたフェア

本特集では九州のプロジェクトを取り上げようと、各自治体に原稿をお願いしましたが、鹿児島県は県の都合により紹介できませんでした。（編集部）

# 「シリコンシーベルト福岡」プロジェクト
## ～アジアにおけるシステムＬＳＩ設計開発拠点の形成をめざして～

福岡県商工部新産業・技術振興課

### はじめに

システムＬＳＩは、特定のシステムをひとつのチップに組み込んだ高機能ＬＳＩ（大規模集積回路：図１参照）であり、携帯電話や情報家電をはじめ社会システムなど社会基盤としてあらゆる分野への展開が期待される成長産業である。

韓国から九州、中国、台湾、香港、シンガポールに至るベルト地帯（シリコン・シー・ベルト：図２参照）には、多くの半導体関連の企業・大学・研究機関が集積しており、世界の半導体生産の約４割を担っている。中でも、九州には約60の半導体生産工場が立地しており、シリコンアイランドとも呼ばれてきたが、メモリなどの汎用品生産工場は、中国などのアジア諸国へのシフトが更に加速化していくことが予想される。そこで、現在の「シリコン・ファクトリ・アイランド」から「シリコン・頭脳・アイランド」へと進化させていかなければならない。

本県が推進している「シリコンシーベルト福岡」プロジェクトは、福岡、北九州地域を中心に、付加価値の高い設計・開発拠点を構築し、シリコンシーベルト地域の頭脳部分を担う研究機関・企業等の集積を図ることをめざすものである。（図３参照）

### 推進体制の整備と目標

本県では、平成13年２月に産学官で「福岡県システムＬＳＩ設計開発拠点化推進会議」（会長：鎌田九州電力社長）を発足させ、次の３つの目標を掲げるとともに、㈶福岡県産業・科学技術振興財団（以後「ＩＳＴ」という。）を中心に産学官一体となったプロジェクトを開始した。

①年間300人の設計技術人材を養成
②年間50テーマの産学官研究プロジェクトの実施
③５カ年で500のベンチャー企業の創出

この会議の設立当初25社、５大学８名であった会員は、平成14年12月１日現在104社、10大学18名に増加している。

### 主な具体的取り組み

（１）人材育成

システムＬＳＩの設計は、高度で多岐にわたる実践的な知識・技術が必要であり、大学新卒レベルでは即戦力にならず、短期間で実践的な設計人材を養成する教育機関に対する企業からのニーズは高い。そこで、本県では平成13年12月、全国初の産学官連携によるＬＳＩ設計人材養成機関として、九州大学の安浦教授を校長とする「福岡システムＬＳＩカレッジ」を開校し、ISTが運営を行っている。

講師陣は、全国の18大学31名の教授等、11企業20名の高度技術者に加え、本年10月から九州大学の寄附講座を活用した２名の専任講師を配置し、カリキュラム・テキスト等の充実を図っている。今年度は、デジタル設計、アナログ・セル設計、ファームウェア設計等の本課程をはじめ、実際にチップの試作・評価までを行う応用・実践課程、ユーザエンジニア、セールスエンジニアを対象とした講座や上級者向けのブラッシュアップ講座等を開講し、講師、受講生の双方から高い評価を得ている。

（２）研究開発支援

プロジェクトの目標の一つである年間50の産学官共同研究開発を推進するにあたって、文部科学省所管の平成14年度新規事業である「知的クラスター創成事業」に本県及び北九州市提案のシステムＬＳＩ等に関する研究開発が「九州広域クラスター」として採択された。この事業は、地域の大学等を核とした実用化を目指す産学官共同研究を実施することにより、関連研究機関、研究開発型企業が集積する拠点（知的クラスター）の創成を目指すものとして、全国で12地域10クラスターが選定されている。本地域のシステムＬＳＩに関するこれまでの取り組みが高く評価されたものでもあり、10億円の補助を５年間受け（図４参照）、当該事業を活用し「シリコンシーベルト福岡」プロジェクトの推進を加速させていくこととしている。

（３）ベンチャー育成・支援

システムＬＳＩの新製品開発等を行うベンチャー企業等を支援し、次世代を担う研究開発型企業群を創出するため、北九州市及び福岡市の協力を得て県独自の補助事業「システムＬＳＩフロンティア創出事業」を創設し、実用化を目指す企業の研究開発費の助成を行っている。

一件当たり年間２千万円以内で２年間の支援を受け、現在８件のテーマが実施されている。

このように、福岡県においては、システムＬＳＩの設計開発拠点の構築を図るべく、産官学が一体となって「シリコンシーベルト福岡」プロジェクトを推進しているが、台湾、韓国をはじめとするアジア各国の台頭が急速に進展する中、今後、国家プロジェクトとしての半導体産業戦略が求められており、世界をリードするＬＳＩ設計ビジネス拠点を構築するためにも、次世代のＬＳＩ研究開発、人材育成、設計ベンチャーの創出等を行う、システムＬＳＩ総合開発センターの整備が不可欠である。

このような中、平成14年度の国の補正予算として、経済産業省の

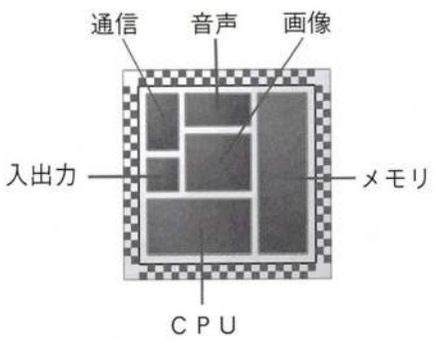


図1　システムＬＳＩ



図2　シリコンシーベルト

平成13年２月、産学官で組織する「福岡県システムＬＳＩ設計開発拠点推進会議」を設立

会　長：鎌田 迪貞　九州電力㈱代表取締役社長
副会長：梶山 千里　九州大学総長
　　宮里 達郎　九州工業大学学長
顧　問：遠藤 昭雄　文部科学省研究振興局長
　　西村 雅夫　九州経済産業局長
　　麻生 渡　福岡県知事
　　末吉 興一　北九州市長
　　山崎 広太郎 福岡市長
会　員：企業104社、10大学18名、
　　支援機関等４機関、行政４機関（H14.11.28）
事務局　㈶福岡県産業・科学技術振興財団

福岡県システムＬＳＩ設計開発拠点推進会議の主な活動



図3　シリコンシーベルト福岡プロジェクト

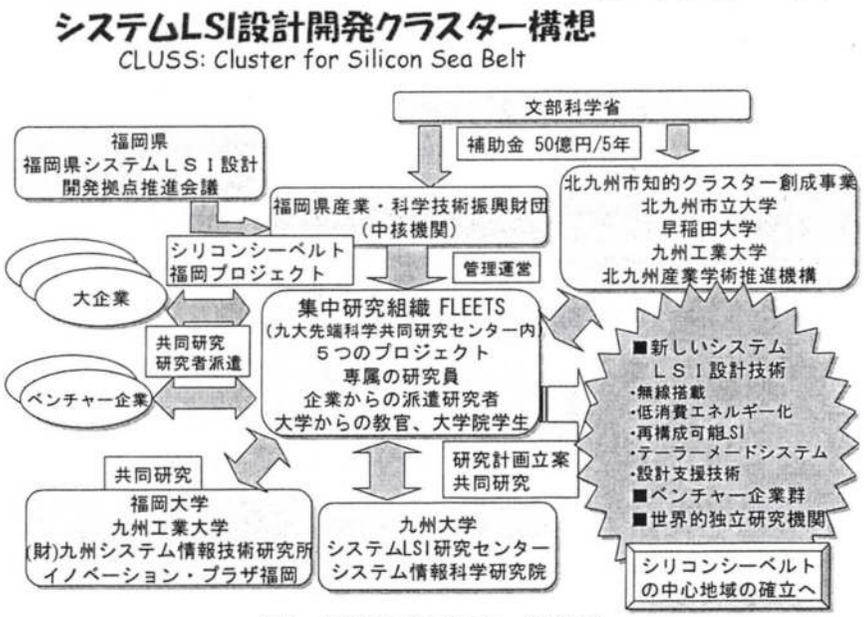


図4　福岡県知的クラスター創成事業

大学連携型起業家育成施設整備事業を活用し、九州大学を核とした大学連携による研究開発・起業化機能、試作・検証機能、設計人材養成機能を有する施設を、地域振興整備公団が福岡市早良区百道に建設することが決定された。

（4）海外との交流・連携

平成13年８月に、システムＬＳＩ設計開発拠点として先進的な取り組みを行っているスコットランドの「アルバプロジェクト」との連携について、産学官からなる福岡県スコットランド産業調査団を派遣した。現在、アルバの研究開発機関との具体的な共同研究の実施について協議を行っている。

また、平成15年１月20日には経済産業省等の協力を得て「シリコンシーベルトサミット福岡2003」を開催した。

この国際会議では、シリコンシーベルト地域における半導体分野のオピニオンリーダーが福岡の地に集結し、それぞれの企業、地域における産学連携、人材育成、市場創造、技術開発等について意見を交換し、シリコンシーベルトとしての連携を確認し合い、福岡からアジアをはじめとする世界にその成果を情報発信した。また、このサミットの意義が認められ、今後も継続的に開催していくことが決定された。

## おわりに

福岡県システムＬＳＩ設計開発拠点推進会議が平成13年２月に発足して以来、大手半導体関連企業の進出やベンチャー企業の新規設立をはじめ、福岡システムＬＳＩカレッジの開校や知的クラスター創成事業を活用した大型研究開発プロジェクトの実施など、アジアにおけるシステムＬＳＩ設計開発拠点の構築が着実に進展してきており、今後とも新しい産業構造への転換、雇用創出に向けて積極的な取組みを実施していくこととしている。

# 鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業

地域振興整備公団鳥栖都市開発事務所

## 九州のクロスポイント

鳥栖市及び基山町は佐賀県東部に位置し、北、東、南の三方が福岡県に接しており、県境を越えた交流が盛んな地域である。また、古くから長崎街道と薩摩方面への街道が交差するという地の利を活かし、日本四大売薬である「田代売薬」が発展するなど、交通の要衝として発展してきた地域である。

今日でもＪＲ鹿児島本線と長崎本線、九州縦貫自動車道と九州横断自動車道（長崎・大分自動車道）、国道３号と34号等、様々な交通網のクロスポイントにあたり、内陸部では保税倉庫の立地数が全国一であるなど、九州全県へのアクセスにおいて優れた利便性を活かして発展を続けている地域である。

鳥栖北部丘陵新都市開発整備事業は、このような恵まれた交通条件を生かし、鳥栖市及び基山町の既成市街地の都市機能を補完し、新たな地域開発の核となる住宅用地、産業用地、教育・文化、医療・福祉等の施設用地及び関連する公共公益施設を総合的に整備することを目的として行われている。

## 事業の経緯

当事業は昭和57年度より佐賀県、鳥栖市、基山町、地域公団において調査を実施し、平成元年11月に佐賀県、鳥栖市、基山町より地域公団に事業要請がなされた。また、昭和62年６月に策定された第四次全国総合開発計画（四全総）に当事業の推進が位置づけられているほか、昭和59年９月に承認された久留米・鳥栖テクノポリス計画の中核事業としても位置づけられている。

平成２年６月に国土庁長官及び建設大臣より事業実施基本計画の認可、平成４年１月に建設大臣より土地区画整理事業計画の認可を受けて以来、順調に事業は進捗しており、平成15年度の換地処分、事業完了を予定している。

## 事業の概要

新都市の事業区域は、背後に背振山地をひかえ筑後平野にのぞむ標高30～80mの丘陵地を主体とする面積約250haにわたっている。

従前の土地利用は、田・畑・山林・原野と、数箇所の集落が散在しており、幅員３m前後の道路が生活道路として利用されている状況であった。また、地区内には、古墳等の埋蔵文化財が散在しており、平成９年に地区内の柚比本村遺跡から出土した「赤漆玉鈿装鞘付銅剣」等は国の重要文化財に指定されている。

事業区域は、鳥栖地区（弥生が丘）約210ha（区画整理事業地区約185ha、公園事業地区約25ha）と、一般宅地造成事業地区の基山地区（基山グリーンパーク）約40haの２地区に分かれている。

鳥栖地区（弥生が丘）では、土地区画整理事業（地域公団施行）及び都市公園事業（鳥栖市施行）により住宅用地、商業用地、産業用地のほか、公園、教育施設、医療・福祉施設等、多様な生活ニーズに対応した各種機能を有する計画人口7,000人、計画世帯数2,100戸の新都市の整備を行っている。

土地区画整理事業上の特徴として、産業系用地には地域公団の先買い用地を集約換地して、まとまった産業系用地を確保しているほか、従前の集落ごとに集団移転を実施して、事業によって地域コミュニティーが分断されることのないよう配慮している。

土地利用は地区の東側を住宅系、西側を産業系用地として、両者の間に幹線道路と緩衝緑地を配している。また、通過交通が入り込まないような道路計画や、緩傾斜の丘陵地形を生かした日照・眺望に配慮した造成形状とし、良好な居住環境を確保している。

基山地区（基山グリーンパーク）は、久留米・鳥栖テクノポリス計画における開発の拠点地区に指定されており、先端技術系の製造業を立地すべく工業用地を整備している。

## 地区の現況

平成15年度末の事業完了に向け、事業は着々と進んでいる。平成13年３月には地区の東端にＪＲ弥生が丘駅が開業し、新都市から博多まで約30分、久留米まで約12分で結ばれるようになった。

また、平成13年度末までには地区内外の幹線道路が全線供用開始され、鳥栖市、基山町の市街地や、国道３号、34号、高速道路等を通じた九州各地へのアクセスが向上した。

独立住宅用地は平成10年度から分譲を開始、平成13年３月の「まちびらき」を経て、平成14年末には人口約1,400人、世帯数約500世帯の「まち」となっている。人口増加のペースは徐々に高まっており、地区内の至る所で次々と建築工事が行われている。

また、産業用地は平成９年度から分譲が開始されて以来、鳥栖地区、基山地区あわせて14社の立地が決まっている（平成14年11月現在）。医薬品を中心とした研究、製造、卸売業の他、九州のクロスポイントという利便性を生かしてスーパーやコンビニエンスストア向けの物流センターの立地が進み、特に流通系用地は計画面積の８割が既に分譲済みとなっている。

地区南西のテクノセンター地区には、佐賀県がシンクロトロン光応用研究施設の建設を進めており、平成16年度に開業する予定である。これにより、九州北部における新しい産業の創造拠点、アジアワイドな研究開発交流拠点としての新都市の役割がいっそう高まることが期待されている。

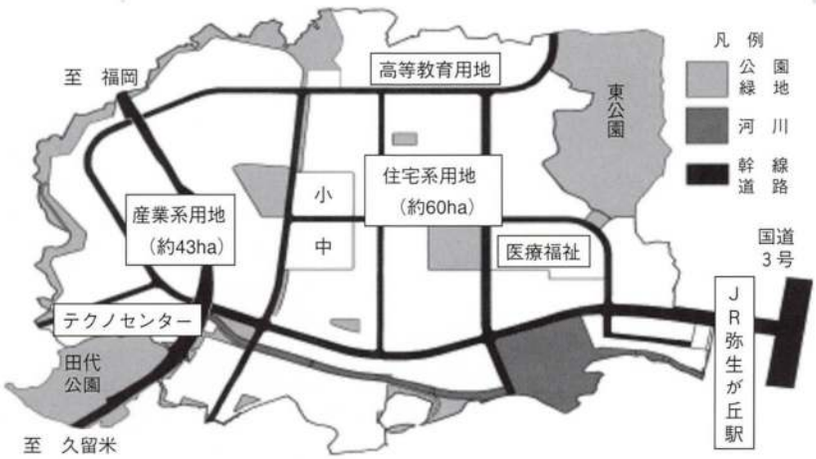
## あとがき

平成４年の着工以来、地元住民、関係機関のご理解、ご協力をいただきながら事業を進め、いよいよ「まち」の形ができあがってきた。全国的な景気低迷の中、佐賀県東部地区は順調な人口増加、経済発展を遂げており、新都市への企業立地も順調に進んできている。一方で、生まれたての「まち」であるがゆえ、商業、サービス施設の立地がまだまだ進んでいないという課題もある。

当事業は事業終了を間近に控えているが、今後とも、地区のテーマである「人と自然、技術、文化がふれあう人間交流都市」づくりに努めていくとともに、新都市が佐賀県、北部九州の地域発展の核となることを願っている。




位置図




弥生が丘（鳥栖地区）の土地利用計画図

**土地利用構成**

○弥生が丘（鳥栖地区）

| | |
|---|---|
| 住宅系用地 | 60ha |
| 産業系用地 | 43ha |
| 誘致施設用地 | 21ha |
| 公益施設用地 | 6ha |
| 道路用地 | 33ha |
| 公園・緑地 | 37ha |
| 河川・水路 | 10ha |
| 合　計 | 210ha |

○基山グリーンパーク（基山地区）

| | |
|---|---|
| 産業系用地 | 24ha |
| 公共用地 | 11ha |
| 合　計 | 35ha |



弥生が丘の街並み




JR弥生が丘駅と駅前広場

# ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想

長崎県政策調整局都心整備室

## はじめに

長崎港のウォーターフロント開発を核とする長崎市都心部の再開発が、ナガサキ・アーバン・ルネッサンス2001構想（以下「アーバン構想」という。）に基づいて進められている。アーバン構想は活力と魅力に満ちた都市の再生を図るプロジェクトとして、昭和61年3月に策定されたが、平成15年度にはその中心となる常盤・出島地区の水辺のプロムナードや緑地の整備が完成するところまで進んできたので、その概要について報告する。

## 構想の概要

アーバン構想は、長崎駅を挟み、北は松山運動公園地区から南は松ヶ枝国際観光ふ頭に至る南北5Km、約112haの帯状の地帯を対象に策定されている。（図1）

昭和50年代当時の長崎市は、オイルショックや二百海里経済水域の設定等の影響により、基幹産業である造船業や水産業の低迷・不振が続き、地域の活力を失いかけていた。また、当時は郊外のベッドタウン建設が進み、大規模工場や魚市場等の都心部にあった工業・物流機能の移転も相次いだことから、この地域の再編・再生が望まれていた時であり、長崎港港奥部の再整備と合わせて一帯の再開発構想が策定された。

長崎再生の基本理念として、①人間環境都市②高次産業都市③国際平和交流都市の3つが掲げられ、基本理念を達成するための都市経営戦略としては、長崎の持つ都市の知名度やイメージを有効に活かすための情報拠点都市（コンベンション都市）を目指している。

## 整備状況

構想地域内のプロジェクトは、地域毎の進度の差はあるが着々と整備が進んでいる。平成7年度には、在来の突堤を拡幅埋立した元船地区に新しい旅客船ターミナル（愛称；ビッグビット、写真1）や倉庫群が完成し、C棟上屋の上部にはみなとの見えるプロムナード（愛称；ドラゴンプロムナード、写真2）が供用開始されている。これらの建物は、外国人を含む個性あるデザイナーによって設計されたもので、伝統的建築物を観光の目玉としてきた長崎には新風を吹き込むものであった。これを契機に“長崎らしさ”とは何かについて、マスコミ、市民団体、議会等の色々な場所で議論されるようになった。

長崎駅より北に位置する松山地区は一帯を運動公園として再整備を進めてきたが、平成9年には県営野球場、市営ラグビー・サッカー場等が完成し、また翌年茂里町周辺地区には国際会議や演奏会等が可能な市営の文化情報施設が開館した。




図1　アーバン構想区域図

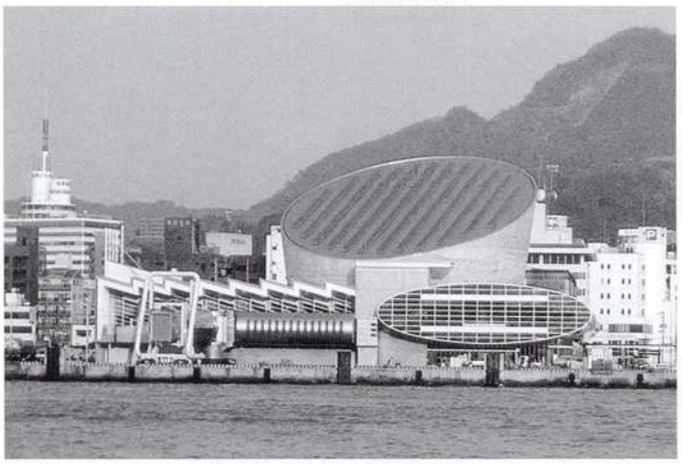


写真1　長崎港ターミナルビル

構想の中心の一角を形成する元船から出島地区にかけては、賑わいの場の創出が求められていたが、平成12年度春に複合商業施設「夢彩都」や臨海型商業施設「出島ワーフ」（写真3）が開業し、それまで倉庫群等に遮られ海に近づく事ができなかった市民や観光客がウォーターフロントをすぐ近くで楽しめるようになった。

平成10年度には、構想策定以来10年以上が経過し、社会・経済状況も大きく変化してきたため、大規模コンベンション施設とホテルを誘致するとした都市再開発用地の利用計画に関する見直しがなされている。

現在は、常盤・出島地区の緑地整備を重点的に進めており、それに接する再開発用地には県と市が協力して進めている県立新美術館の計画が着々と進んでおり、平成17年の完成を目指している。

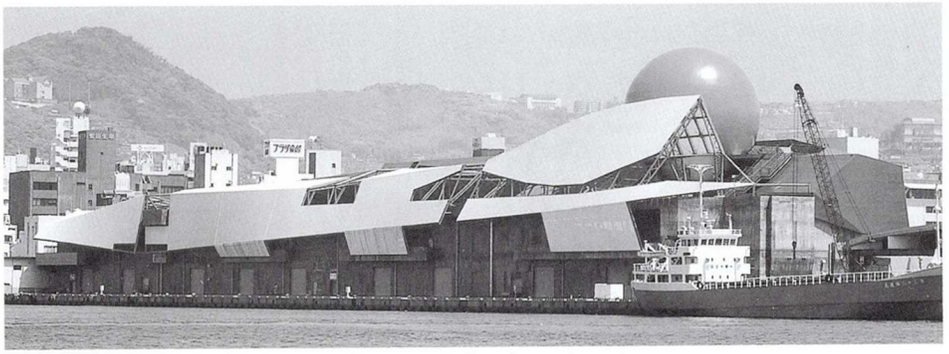


写真２　ドラゴンプロムナード



写真３　出島ワーフ




図２　常盤・出島地区緑地

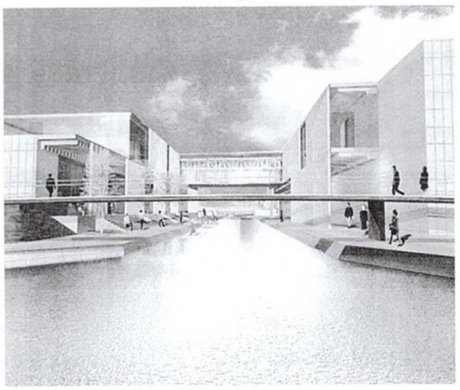


図３　長崎県新美術館

## 環長崎港地域アーバンデザインシステム

アーバン構想の重点整備地域である元船から常盤・出島地区を中心とする長崎港を取り巻く環長崎港地域には、港湾、都市計画、漁港、道路等の県事業が集中しており、従来はこれらのデザインが縦割り的になされてきたことの反省に立ち、この地域の統一コンセプトに基づくデザインを行おうということとなり、環長崎港地域アーバンデザインシステムを立ち上げた。

本システムは、チーフアーキテクト方式をアレンジしたようなシステムで、都市計画、景観、ランドスケープ、照明等の専門家で構成する専門家会議を設置し、具体的なテーマ毎の担当アドバイザーを決めてもらい、各アドバイザーの指導のもと描かれた案を専門家会議へフィードバックさせ議論・検証していくというユニークなシステムであり、その内容は長崎市との連絡調整会議においても報告され調整が図られることとなっている。

本システムはアーバン構想区域の湾奥部のみでなく近隣の陸域部を含んだエリアにおいても機能しており、高速道路へのアクセス道路である出島バイパストンネル出口部のデザイン、旭町地区に建設中の市街地再開発ビルのファサードのデザイン、中島川に架かる橋梁のデザイン等に成果を発揮し、洗練された品のいい施設整備が実現されつつある。

## 常盤・出島地区緑地

この緑地は約6.5haあり、海洋イベントを始めとする種々のイベントが可能な広場の整備、港湾部を訪れる人々の海洋性レクレーション活動のための快適なウォーターフロントの形成を目指している。（図２）

市民に開かれた豊かで親しみのある空間とするため、縦と横に走る水路沿いの水辺のプロムナードを整備するほか、国際旅客船ふ頭背後のシーサイドパークには芝生広場や水の劇場等を設け、春夏秋冬にゴールデンウィークを加えた五季折々の花木も植栽する予定である。また、横水路内の小島には、緑地を訪れる人々の休憩場所としてカフェレストランを計画している。

緑地計画の策定には、基本計画段階では産・学・官に市民の代表の方を加えて検討を行い、実施段階では前節のアーバンデザインシステムによる専門的な観点からの検討を加え、より質実で洗練され永く市民に愛されるような施設の整備を目指している。

## 長崎県新美術館（仮称）

長崎市諏訪ノ森地区にある県立美術博物館が老朽化してきたのを機に、美術館機能を独立させ、常盤・出島地区へ移転させることとなった。新美術館は、水路を挟む石張りの２棟の建物を渡り橋で繋ぐという珍しい構造となっているが、このデザインについても緑地等の周辺地域との調和の観点から、アーバンデザインシステムによる検討がなされた。本システムで主たる検討課題となったのは外部の緑地を含めたより広域の視点に立った景観検討で、建築と土木、造園との調整・調和が図られた。階段等の外部とのアクセス及び美術館の南側の歩道橋を含む景観デザインには多くの議論があり、結果としてスマートですっきりした景観とすることができた。（図３）

## あとがき

2001構想と名付けられた当アーバン構想は百年の大計として21世紀初頭を目指して計画されたものだが、光陰矢のごとしであり、すでに構想策定以来14年が過ぎた。先導的に取り組んできた港湾部の開発は常盤・出島地区の完成で一段落し、今後の整備の主力は、連続立体交差事業や土地区画整理事業が計画されている長崎駅周辺地域の再開発に移っていくこととなる。

# ユニバーサルデザインによる21世紀の熊本づくり

熊本県企画振興部企画課

熊本県は、九州の中央に位置し、世界一のカルデラを有する雄大な阿蘇、美しい島々からなる天草という２つの国立公園を中心に、山あり海ありの美しい景観を形成している。このような豊かな自然環境に抱かれ、清らかな地下水にも恵まれた本県は、農業粗生産額でも全国第６位を占める全国有数の農業県であると同時に、日本のＩＣ生産額の３割以上が生産される「シリコンアイランド九州」の中にあって、その約１／３が本県で生産されるなど半導体関連産業の集積が進む地域でもある。

本県の人口は約186万人を数え、平均寿命では男女ともに全国平均を大きく上回る長寿県でもある。高齢化は全国平均より７年ほど早く進み既に高齢化率では21%を超えた超高齢社会を迎えている。

このような中で、本県では早い段階からいわゆる福祉のまちづくりの取り組みとして「高齢者や障害者にやさしいまちづくり」を進めてきたところであるが、21世紀を迎えた今、これをさらに発展させ、すべての人が住んで良かった、住み続けたいと願うような熊本をめざし、ユニバーサルデザインによる県土づくりに取り組んでいる。

## ユニバーサルデザイン（UD）とは？

ユニバーサルデザインは、Universal〔普遍的な，万人（共通）の，万能の〕とDesign〔設計，構想，計画〕という２つの英単語が合わさったもので、そのアルファベットの頭文字を取ってＵＤ（ユーディー）ともいわれ、年齢、性別や能力の違いなどに関係なく、最初からだれもが利用できるような製品、建物や環境のデザインを意味する。もともと米国で提唱され、1990年ＡＤＡ法（障害を持つアメリカ人法）の制定以降に急速に広まった考え方であるが、わが国でもここ数年で社会的にも広く認知され始め、今日では、情報、サービスやコミュニケーションを含む「すべての人が生活しやすい社会のデザイン」といったより広い概念として広がりを見せている。

## 本県でのUDの位置づけ

本格的な高齢社会の到来、国際化や情報通信技術の高度化などに伴う社会・経済構造の変革、価値観の多様化等の一層の進展が見込まれる21世紀の社会を展望し、本県では、このＵＤをこれからの社会を形づくるうえでの基本理念というとらえ方をしている。

このような基本認識のもとで、「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現を掲げた本県のＵＤ推進も丸３年を迎えようとしているが、もともとは現在の潮谷県知事の選挙公約に端を発するものである。福祉の現場に長い間身を置いていた知事は、高度経済成長を背景にしてこれまでの社会環境がどうしても健康な男性を中心につくられ、高齢者や障害者と呼ばれる人たち向けには特別な対策を取り続けてきたことに疑問を覚えていた中でＵＤに出会った。

かくして、知事の選挙公約を県の施策展開上の理念として取り上げた本県では、知事の強力なリーダーシップのもとで、ＵＤの取り組みが進められている。と同時に、「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」を実現するためには、「すべての人」という視点を大切にするＵＤを県内のさまざまな地域や幅広い分野に取り入れる必要があり、そのためには県だけでなく、企業・団体、県民の方々などの思考や活動のすべてにこの考え方が深く浸透し、県民運動として展開されるようにという思いで取り組みを進めているところである。

## 県民などとのパートナーシップでUD推進方策を検討

県民運動としての展開を模索しながら取り組みを進めてきた本県のＵＤは、その取り組みの始めから県民参加を基調としてきた。

平成12年当時、本県でのＵＤ推進を検討して行くにあたって設置した「熊本県ＵＤ研究会」では、県内の団体や企業の方々に参加を呼びかける一方で、公募による40人を超える県民の方々にもご参加いただいて４回にわたって議論を重ねた。また、そこでの検討結果をその後に開催した「熊本ＵＤ国際シンポジウム」に持ち込み、国内外からの11人の講師を交え、県民や企業・団体、行政などとのパートナーシップによるワークショップを行い、熊本なりのＵＤ推進を考え、それぞれの立場で何ができるのかを議論した。このようなステップを経て、昨年２月に熊本におけるＵＤの進むべき方向とそれぞれに求められる役割などを明らかにした『くまもとユニバーサルデザイン振興指針』が完成した。

この指針では、「だれもが暮らしやすく豊かなくまもと」の実現に向け、ＵＤ推進の原則としてプロセスの重視〔①徹底した利用者（ユーザー）志向，②コミュニケーションの重視，③システム的なアプローチ〕を掲げた。また、県民の目線でとらえたＵＤをまちづくり、ものづくり、情報・サービスづくりとそれらを取り巻く意識づくりという４つの分野で詳細に描くとともに、行政、企業・団体、県民などがそれぞれに役割を担いながらＵＤを推進していく必要性を記した。

## 県における具体的なUDの取り組み

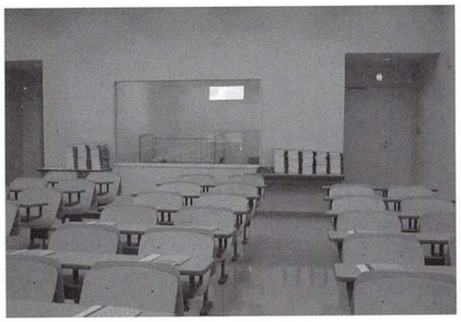
県では、この推進方策の検討と並行して、一人でも多くの県民の方々にＵＤを理解していただくことにも力を注ぎ、国主催のインターネット博覧会を活用してＵＤのホームページ「ＵＤネット（http://ud-kumamoto.rkk.ne.jp/index_main.asp）」を開設するとともに、県下各地で講義とタウンウォッチングを取り入れたグループワークによるＵＤ教室を開催するなど、広く普及啓発と情報発信にも努めてきた。さらに、今年度に入ってからは、指針を踏まえ、県の


熊本ＵＤ国際シンポジウム



ＵＤファッションショー


ＵＤタクシー


運転免許センター親子ルーム


健軍商店街ＵＤ（買い物サポーター）


ＵＤ授業風景

さまざまな施策に積極的にＵＤを取り入れる動きや、県民運動としての展開に弾みをつける取り組みにも着手しているところである。

ひとつには、公共施設のみならず、不特定多数の利用が想定される建物なども視野に入れたＵＤ建築ガイドラインや、一般住宅へのＵＤ導入を進めるための住まいのＵＤ手引きをはじめとする各種ガイドラインの策定が挙げられる。なお、この住まいについては、県の住宅供給公社が、ＵＤをコンセプトに大型の住宅団地の分譲を進めており、今後はこのガイドラインに沿ったモデル住宅の建設も計画しているところである。

２つ目として、県民の方々に見える形でのＵＤの実践事例の提示である。昨年オープンした運転免許センターでは、乳幼児連れでも講習が受けられるように全国初の親子ルームを併設した講習室を整備したほか、県内のＮＰＯやボランティアの育成や支援を目的とした県民交流館パレアでも、ＵＤの考え方を取り入れたさまざまな工夫や設備を取り入れた整備を行っている。今後は、九州新幹線の開業に合わせて設置される新駅でもＵＤを取り入れていくこととし、現在関係機関と協力しながらその検討を行っているところである。

また、公共の建築物だけでなく「衣」にスポットを当てたＵＤファッションショーを服飾専門学校などとのパートナーシップによって開催することで、県民の方々に身近なテーマとしてＵＤをとらえていただくような機会も創出した。

加えて、県民の方々の主体的な活動をサポートするといった観点からは、ＵＤアドバイザーの派遣といったバックアップ体制づくりや、「ＵＤネット」を活用してＵＤの情報交換を行うために県民を対象としたＵＤレポーターの養成なども行っている

## 県以外でのＵＤ運動の広がり

ＵＤ推進から３年目が終わろうとしている今、このような県民の方々を巻き込んで、あるいは県民の方々に見える形で進めてきたＵＤの取り組みが、少しずつではあるが県民の中にも各方面で広がり始め、実を結びつつあるように思う。

熊本市内の健軍商店街では、ＵＤ研究会に参加した役員の方を中心にＵＤの考えを取り入れた商店街づくりが進められており、これまでに重い荷物を運ぶボランティアを常駐させた「買い物サポーター」や地元タクシー会社の協力による低料金での宅配サービスなどの制度を導入し、高齢の買い物客から喜ばれているという。

また、国際シンポジウムに参加したタクシー会社の方は、社内で勉強会を重ね、車いすの利用者でも通常の小型タクシー料金でそのまま乗車できるＵＤタクシーを走らせ始めており、地場の建設会社ではＵＤの考え方を取り入れたマンションの建設も始まっている。

さらには、総合的な学習の時間を活用したＵＤ授業が小学校で行われるなど、学校教育現場でも子どもたちへの意識づくりの観点でその取り組みは広がりつつあるといえる。

## 今後のＵＤ推進の課題

しかし一方で、アンケート調査結果から見る県民へのＵＤの浸透はまだまだ低迷しており、大多数の県民の方々にとってＵＤは未だなじみのない遠い存在であることも否めない。

今後、より多くの県民を巻き込んだ県全体の運動としてＵＤを推進していくためには、県内のありとあらゆる分野でＵＤの考え方が取り入れられ、県民生活のいたるところでＵＤに触れる機会を提供していくことが必要である。そのためには、まず県の職員一人ひとりがＵＤを掛け声として唱えるだけでなく、その業務において自ら実践していくことが求められており、県内部でも推進体制を整え、率先垂範に努めているところである。

４年目を迎えようとする現在、このような県の動きに呼応した、あるいは県を凌ぐような取り組みがいたるところで生まれることを期待し、県から始まった「ＵＤによる21世紀の熊本づくり」が行政の枠組みを越え、より多くの意識ある県民、企業・団体などによる自発的な動きという次のステップをめざしていきたいと考えている。

# ひむか歴史ロマン街道形成構想

宮崎県企画調整部地域振興課

「神話と伝説のふるさと」と称される宮崎県は、国の特別史跡西都原古墳群をはじめとする数々の史跡や天孫降臨神話などの古事記・日本書紀にまつわる神話、さらには地域の人々によって大切に受け継がれてきた神楽等の民俗芸能など、歴史資源の宝庫である。

このような豊富な歴史資源を今後の個性的、自立的な地域づくりに活用する観点から、平成11年度から２カ年をかけて、県内全市町村と共同で、地域住民や民間有識者等の意見も参考にしながら、調査研究を行った。

「ひむか歴史ロマン街道形成構想」は、これらの調査結果を踏まえて、歴史資源を広域的に活用した地域づくりの指針として策定したものである。

## 構想の概要

各地域の歴史や文化的つながりなどを考慮し、県内に８つの「歴史交流ゾーン」を設けるとともに、それぞれのゾーンを、共通するテーマでつなぐ８つの「広域歴史ルート」を設定し、ゾーンやルートの特性を生かした多様なプロジェクトを推進する。

## 構想の展開

この構想を具体的に展開していくため、県では、道路網の整備を進めるとともに、市町村等が行う歴史資源を活用した地域づくりを支援する制度を設けている。

これにより、それぞれの地域では、歴史イベントの開催や語り部などの人材の育成、情報発信等の取り組みが活発化している。

また、８つの広域歴史ルートの中から、「ひむか神話街道」をモデルルートとして位置付け、構想の先導的プロジェクトとして整備を行っている。

## モデルルート「ひむか神話街道」の概要

このルートは、県北の高千穂町から高千穂峰のある高原町までの全長約300kmのルートで、古事記・日本書紀にまつわる神話や平家落人伝説など、本県に残る数々の神話や伝説の地を結んでいる。(右図参照)

国道や県道、農道、林道を組み合わせており、現在、工事が進められているトンネル等が完成する今春には全線が開通する予定である。

高千穂町から宮崎市までの区間は、九州山地を縦断し、豊かな緑の中を古代の神話や伝説を訪ねるルートとなり、宮崎市から日南市にかけては、風光明媚な日南海岸の神話・伝説のルートとなる。

開通後は、九州山地の東側を縦断する新たなルートとして、多くの方々に訪れて欲しいと思っているが、家族や小グループでマイカーを利用し、時間をかけてゆっくりと巡るのに適したルートだと考えている。

**■沿線の主な魅力**

【日向神話】

高千穂町、高原町の天孫降臨神話や宮崎市、日南市の海幸・山幸神話をはじめ、古事記・日本書紀の舞台となった日向神話の伝承地が数多くある。

【ロマンあふれる伝説】

椎葉村の平家落人伝説や、南郷村の百済王族の伝説、仁徳天皇妃となった髪長媛など、多くの伝説が残されている。

【神楽等の民俗芸能】

高千穂町や椎葉村など、沿線のほとんどの地域には、特色ある多くの神楽、また、臼太鼓踊りや民謡など、数多くの民俗芸能が残されている。

【国の特別史跡西都原古墳群】

ひむか神話街道のほぼ中央に位置し、311基の古墳を有する日本最大規模の古墳群である。

現在、古墳群の保存や西都原考古博物館（仮称）などの整備を進めている。

【豊かな自然と暮らしの風景】

このような歴史資源とともに、新緑や紅葉に彩られた九州山地を背景に、地域の人々が古来より受け継いできた巨木や古木などの自然や、棚田等の暮らしの風景など、神話や伝説の地にふさわしい自然、景観が味わえる。

## 構想の実現に向けて

「ひむか歴史ロマン街道形成構想」を実現していくには、地域の方々が自分たちの身近にある史跡や伝承などの歴史資源の価値を再認識し、愛着や誇りを持って、地域の個性や魅力としてこれらを活用した地域づくりに主体的に参加することが必要である。

今後とも構想の実現に向けて、市町村や地域住民と一体となって地域の歴史に着目した多様なプロジェクトを展開しながら、「歴史文化に彩られた個性あふれる宮崎県」の実現を図りたいと考えている。

# ひむか神話街道
HIMUKA MYTH ROAD




①高千穂町　天の安河原

「天の岩戸」伝説や天孫降臨伝説をはじめ記・紀神話ゆかりの地の宝庫で、それらテーマとした高千穂神楽も有名。



②五ヶ瀬町　荒踊

イザナキ、イザナミの二神を祀る三ヶ所神社に奉納される「荒踊」は、国の重要無形民俗文化財の勇壮な踊り。



③椎葉村　鶴富屋敷

落人となった平家一族の鶴富姫と追っ手側の那須大八郎の悲恋の舞台となった椎葉村は、民俗文化の宝庫でもある。



④南郷町　百済の館

古代、朝鮮半島で滅ぼされた百済の国王一族が隠れ住んだという伝説と王親子の対面の儀式「師走まつり」が残る。



⑤西都市　西都原古墳群「鬼の窟」

記・紀神話のニニギノミコトとコノハナサクヤヒメの出逢いから墳墓とされる西都原古墳群まで、エピソードの数々を辿れる。



⑥佐土原町　佐野原聖地

神武天皇の父ウガヤフキアエズノミコトの宮殿跡とされる「佐野原聖地」は、佐土原・島津藩の崇敬も厚かった。



⑭高原町　天の逆鉾

天孫降臨伝説の高千穂峰には「天の逆鉾」が刺さり、神武天皇が生まれ育った皇子原はじめゆかりの地が数多い。



⑦宮崎市　青島

イザナキノミコト禊ぎの地・阿波岐原、山幸彦ゆかりの青島神社、神武天皇即位の宮崎神宮など神話ゆかりの地が多い。



⑬高崎町　神石

イザナキノミコトが剣で三段に切ったと言われる「神石」や、鬼が一夜にして造ったと伝わる「鬼岩階段」は見物である。



⑧日南市　鵜戸神宮

豊玉姫に代わってウガヤフキアエズノミコトを育てた「乳岩」がある鵜戸神宮や、神武天皇の愛馬ゆかりの駒形石がある。



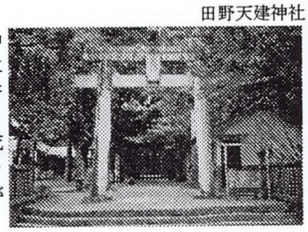
⑫高城町　髪長媛像

仁徳天皇が歌に詠み、父に懇願してまで后とした絶世の美女「髪長媛」は、この地の生まれであるという説がある。



⑩田野町　田野天建神社

「田野天建神社」には田野に逃れてきた百済王が、暴れる月毛の馬により死ぬまでの数々のエピソードが伝わる。



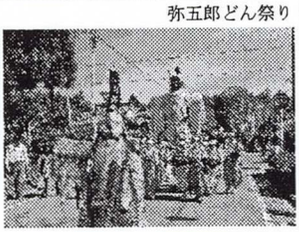
⑨北郷町　潮嶽神社

山幸彦に敗れて流れ着いた海幸彦を、全国で唯一祀る「潮嶽神社」があり、ゆかりの習俗、舞、踊りなども残る。



⑪山之口町　弥五郎どん祭り

巨人伝説のひとつ「弥五郎どん」は、ハヤト族に関係するという説もあり、祭りでは身の丈4m余りの弥五郎どんが繰り出す。



# 人にやさしい「ゆいレール」をめざして

## 沖縄県土木建築部都市モノレール建設室

沖縄県は、我が国の南西端に位置し、大小161の島々からなる面積約2,265㎢、人口約130万人の島嶼県である。沖縄本島石川市以南の中南部都市圏は、県全体の約２割の面積に県人口の約８割（100万人）が集中する中枢的な都市圏である。

特に政治・経済の中心である那覇都市圏においては、人口や産業の集中及びモータリゼーションの進展等により、交通混雑が著しく、都市機能の低下や生活環境の悪化を招いている。このようなことから、交通渋滞を緩和し、健全な都市機能の維持発展を図るため、定時定速性を確保できる都市モノレールを導入するものである。

また、導入に伴って、駅周辺や沿線の開発を行うとともに、バス路線の再編を行い、利便性の高い公共交通ネットワークを構築する計画である。




沖縄都市モノレール路線図

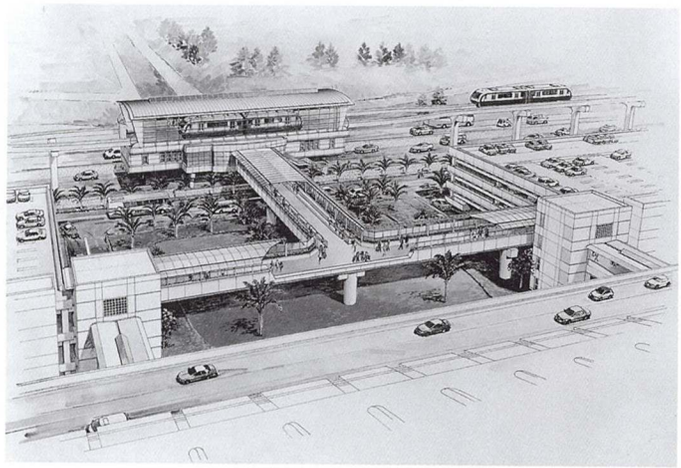
■事業概要

①計画区間／那覇市字鏡水～那覇市首里汀良町（建設キロ13.1km、営業キロ12.9km）
②構造／跨座型
③駅数／15駅（平均駅間距離0.92km）
③建設費／全体事業費1,128億円（インフラ部704億円、インフラ外部424億円）
④運転方式／ATC（自動列車制御装置）によるワンマン手動運転
⑤車両／２両固定編成、定員165人
⑥営業時間／午前６時～午後11時30分
⑦所要時間／片道約27分
⑧運営主体／沖縄都市モノレール株式会社

### 駅位置の選定及び駅舎の建設

駅位置については、①住宅団地や公共施設に近接している、②利用者からのアクセスや他の交通機関との連絡が容易である、③業務地や市場に近接している、④今後、商業業務地の中心を形成されることなどを考慮して決定している。

また、駅舎のプラットホームは、有効に利用でき経済性に優れている島式ホーム（10駅）を基本的に採用している。相対式ホーム（５駅）は、カーブなど線形的条件や立地状況などの制約を受ける場合に採用している。



那覇空港駅連絡通路完成予想図

駅舎の工事に関しては、道路管理者が施工するインフラ部（柱、屋根、壁、階段、昇降機など）の工事と沖縄都市モノレール株式会社が施工するインフラ外部（内装工事，駅務機器など）の工事がある。構造は鉄骨造で、階数はコンコース階、軌道床階、プラットホーム階の３層、延べ床面積は約1,700㎡となっている。主要施設として、駅務室、券売機室、電気室、通信機器室、男女便所、身障者便所、受水槽ポンプ室・倉庫などがある。

### バリアフリーの推進

すべての人に、安全で安心して利用しやすい公共交通機関をめざして、「沖縄県及び那覇市福祉のまちづくり条例」や「交通バリアフリー法」及び移動円滑化基準に基づいて設計し、また、県身体障害者福祉協会等の関係福祉団体との話し合いを重ねて、理解と協力を得ながらを進めている。

**①コンコース階**

ａ．券売機室

車椅子対応券売機、点字付き券売機、点字案内板（施設案内、運賃表等）、音声案内誘導装置を設置する。

車椅子対応券売機は、寄りつきがしやすいようにしている。音声案内誘導装置は、利用者があらかじめ携帯する小型送信機の押しボタンを押すことにより、電波を音声案内誘導装置が受信してスピーカーから具体的な音声案内が放送される。同時に駅務室のメロディー機で駅員に知らせることになっている。

ｂ．改札口

松葉杖や車椅子利用者対応の有人改札口（有効幅員130㎝）を設置し、駅務室のカウンターは低くして対応しやすいようにしている。

ｃ．エレベーター

エレベーターは主に交通弱者が利用するので、介助のことも考慮

し、改札口近くに設置する。コンコース階からホーム階へ直通で、視覚障害者の誘導は誘導用ブロックの敷設や音声案内誘導装置で誘導する。福祉対応型で13人乗り押しボタン式である。

d．エスカレーター

エスカレーターの形式は800型（踏み段の幅は60cm）で、自動運転制御付き、上り専用とする。

e．階段

階段の内法幅は150cm、蹴上げは15cm、踏面は30cmとし、両側に点字プレート付きの2段手すりを設置する。

f．便所

異性の介護者が付き添いの時を考慮し、福祉便所は男子便所、女子便所とは別に設置する。福祉便所には、オストメイト対応設備（温水シャワー、脱臭装置付き汚物入れ、衣服掛け、オストメイトマークの表示）を那覇空港駅、県庁前駅、首里駅の3駅に設置する。また、乳幼児連れのお客様用としてベビーキープ、ベビーシートを設置する。男子便所、女子便所、福祉便所には、非常警報や光で非常時を知らせるパトライト（赤色回転灯）を設置する。

**②プラットホーム階**

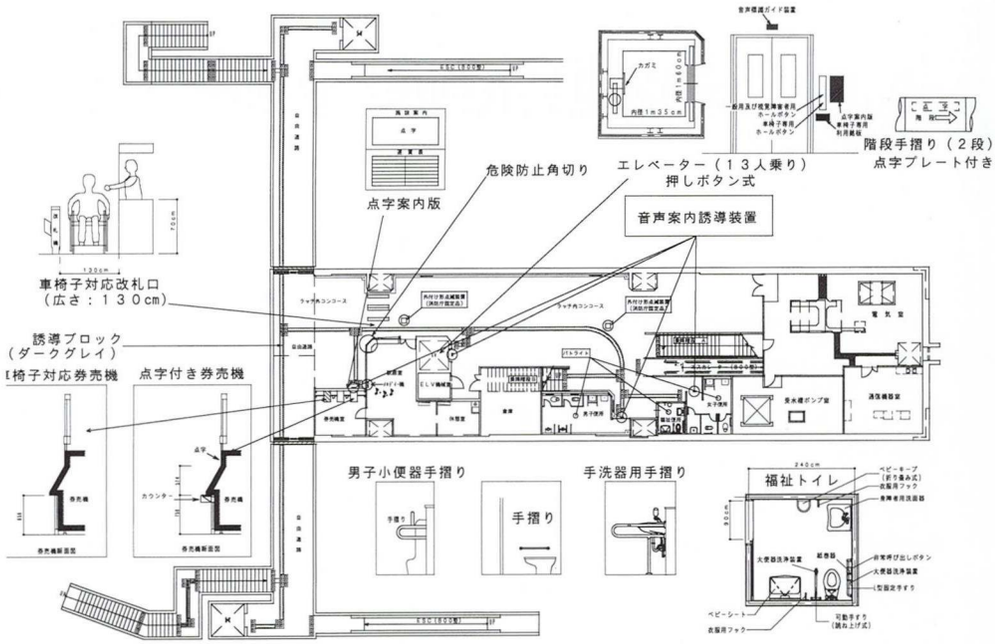
旅客の転落防止のため、プラットホームの縁端には固定安全柵及びホームドア（可動安全柵）の設置、また、プラットホームの縁端と車輌の離れ及び段差（約8cm）解消のために車椅子乗降装置を設置する。列車の接近を文字による案内及び自動放送装置による音声案内を行う。プラットホームの妻側には、強風雨対策としてガラススクリーンを設置する。

**③自由通路（立体横断施設）**

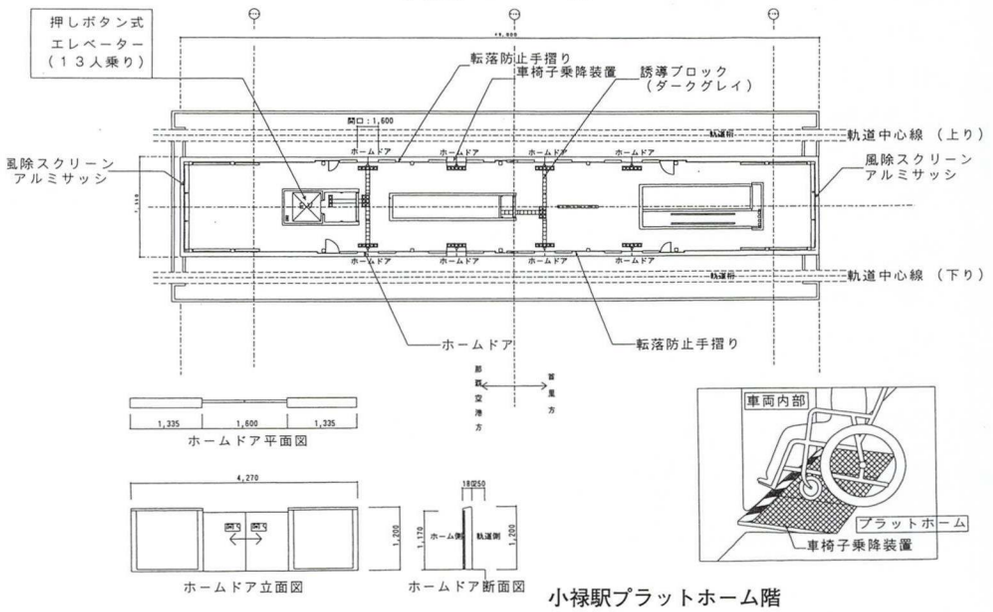
自由通路は、地上（歩道）からコンコース階及び対面の歩道への移動円滑化のための施設として14駅に設置する。昇降施設として、両サイドの歩道にエレベーター1基（福祉対応型）、エスカレーター1基（上り専用）、階段1カ所を設置する。また、那覇空港駅から那覇空港旅客ターミナルビルや市立病院前駅から市立病院への連絡通路を設置する。



施工中の小禄駅




小禄駅コンコース階




小禄駅プラットホーム階

## 立面計画（外観デザイン）

駅舎は道路上に建設する比較的規模の大きな構造物であるため、外観デザインについては、沖縄県都市モノレール施設景観検討委員会の結果にもとづき、また、那覇市の都市景観に与える影響が大きいことから那覇市都市景観審議会で意見を聞き、デザインなどを決定している。特に、屋根の形状については、柔らかなデザインで比較的周辺景観になじみやすい形状とするために、妻側変化型（半円形）を基本とし、色彩は周辺建築物との調和を図るため、ライトグレー系を基本とする軽快な施設としている。

## おわりに

戦後初めての軌道交通沖縄都市モノレールが、今年開業する。日頃、軌道交通に不慣れな県民に安全で安心して利用していただくという観点からも、施設のバリアフリー化は重要であり、今後も、人に優しく生活環境に優しい「ゆいレール」や駅周辺施設のバリアフリー化を着実に進めていきたいと考えている。

# 第20回全国都市緑化おおいたフェア

第20回全国都市緑化おおいたフェア実行委員会

第20回全国都市緑化おおいたフェアは、４月28日から６月29日まで大分スポーツ公園と佐野植物公園をメイン会場として「花と緑」による「癒し」「環境」「参加・交流」「文化創造」をキーワードに、大分県で初のビッグイベントとして行われる。

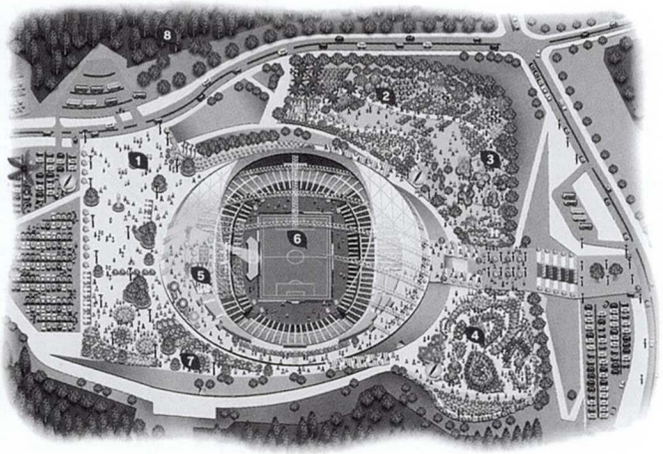
大分スポーツ公園は大分市の中央部に位置し、総面積約255ha、県内スポーツ文化の拠点として整備が進められている。公園の中の中核施設「ビッグアイ」は、開閉式屋根を持つ全天候型のスタジアムで、３万４千人（固定席）の収容能力を誇り、現在2008年の大分国体に向け、陸上競技トラックの整備が進められている。昨年６月に九州で唯一ワールドカップが行われた会場でもあり、今回のおおいたフェアでは、ワールドカップに関係した国々との交流をテーマに、各国の植物コーナーやワールドカップ関連グッズの展示も行われる。

大分市佐野植物公園は大分市の東部に位置し、総面積８.７ha、平成３年４月に開園した。大分市の東部清掃センターの焼却残土の埋め立て地を利用してつくられた公園で、おおいたフェアでは、「環境」をテーマに子供たちの学習の場として展示やイベントが行われる。

おおいたフェアでは、両会場合わせて「１,000種類、100万株」の花や緑を使用することとしており、その99.5%を県内で調達する。

## 大分スポーツ公園会場では

【ウエルカムエリア】「フラワータワー」や「立体花壇」など会場内の展示に期待感を持たせるものがつくられている。なかでもマスコットキャラクター「カボたん」の名前が付けられた「カボたん花壇」は、子供たちにも人気になりそう。そのほか、県民参加による「県民花飾り花壇」や、まさに名前の通り「かぼすロード」など歓迎ムードあふれる展示が続く。




❶ウエルカムゾーン　❷香りのテーマガーデン　❸交流エリア　❹暮らしのエリア
❺ホワイエエリア　❻スポーツ交流エリア　❼ビッグアイ外周回遊ゾーン　❽森のゾーン

大分スポーツ公園―テーマ／緑・香　交流ガーデン―

【花と香りのエリア】ビッグアイの周辺部には、フェアで最大の見所のひとつ「花と香りのシルクロード」がある。会場一面にヨーロッパ、アジア、中国、日本の壮大な花と緑、そして一面に漂う「香り」。香りを楽しみながら世界各国を旅する気分に浸ることができる。ローズガーデン、ハーブガーデンの西洋のエリアでは、敬宮愛子様ご生誕を祈念してつくられた「ロイヤルプリンセス」が甘い「香り」を漂わせクリーム色の花を咲かせていたり、熱帯アジアのエリアでは、シャネルの５番の原料となる「イランイランノキ」やハワイのレイでも使われる「プルメリア」なども展示される。

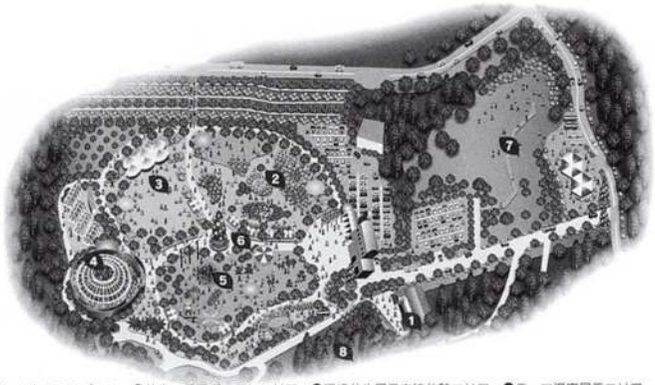
【交流エリア】 交流エリアでは、アジア各国、W杯関連国をイメージした国際交流園「花のネットワーク」や各団体の出展花壇が展示の中心となっている。なかでも各都道府県出展の「いろどり列島花壇」や、九州各県自治体からの出展「九州花景色」では各県の特色のある木や花を使ったオリジナルな花壇や、県内58市町村合同による「豊の国花景色」などが来場者の目を楽しませる。国土交通省九州地方整備局出展の「憩緑水苑（けいりょくすいえん）」と名付けられた庭園では、水と自然の調和の中で憩いと癒しを感じることができる。そのほか、子供が楽しく遊べる「キッズガーデン」や珍しい竹を集めた「アジアの竹園」など見所満載だ。

【暮らしのエリア】大分県の造園技術を結集した「豊の大庭園」や県内外の造園業者による「豊の国百彩苑」が見所となる。「緑とのふれあい」をテーマにつくられるこの百彩苑は、全部で111庭園になり、過去の緑化フェアでは、最大の出展数となる。エリア内では、資材メーカーにより、障害を持った人でも健常者と同じようにガーデニングが楽しめる「やすらぎの庭」が出展される。

【ホワイエエリア】ビッグアイのホワイエ部分にある「香りの文化村」は、「香り」を様々な形で表現して来場者に楽しんでもらうもので、オレンジやラベンダーの「香りのウエルカムシャワー」、香りの文化について、特に香道の貴重な展示物を集めた「香りのミュージアム」、映画のワンシーンの香りを再現する「香りのシアター」、実際にスパイス、ハーブティーなどの香りの製作を体験してもらう「香りの体験工房」など盛りだくさんな内容となっている。大分県は、「日本の香り百選」に４カ所（かぼすの香り、久住高原の山焼き、別府温泉の湯煙、香りの森博物館」）も選ばれており、「香りの文化村」は、その発達した香り文化の象徴とも言える。

## 佐野植物公園会場では

【エコと暮らしエリア】「エコと暮らしのエリア」の「エコガーデン」は自然と暮らしが共生する庭園で、有機栽培による菜園花壇で人と



❶エントランスゾーン ❷共生・循環ガーデンエリア ❸環境共生展示交流体験エリア ❹テーマ温室展示エリア
❺子ども遊び休憩広場エリア ❻エコロード ❼周辺修景休憩ゾーン ❽自然林散策ゾーン

**佐野植物公園―テーマ／くらし・地球　エコガーデン―**

自然にやさしい生活を分かりやすく展示する。エリアの一角では、無農薬による家庭菜園づくりを学べる「オーガニック菜園講座」や「ハーブティーサロン」でのティーサービスなどが楽しめる。

【展示交流エリア】催事広場「みどりのステージ」では、子供に人気のキャラクターショー、コンサートやパフォーマンスが楽しめる。特に「お神楽」は大分市あげての郷土芸能であり、たっぷりと堪能できる。「21世紀の環境にやさしい生活」をテーマとする特設展示場「エコ情報プラザ」では、最新の環境関連技術や自然素材製品を暮らしにとりいれた「エコライフモデルルーム」、21世紀の交通手段となりそうなエコカーの展示、そして環境に配慮した市民活動、行政の支援事業など様々な情報が集められ、展示される。

【花の遊惑星】佐野植物公園会場での見所のひとつが、「花の遊惑星」と名付けられた観賞温室。隣接する清掃工場の余熱を利用してつくられたもので、展示される花もトロピカルなものが多い。特に「学びのギャラリー」に展示されるラフレシアは直径１mほどの花を咲かせる世界最大の寄生植物で、シリコン樹脂で封入された実物の花が自然の不思議のシンボルとして展示される。ギャラリーの一角では、水槽を利用したアクアガーデンで亜熱帯の水の中を再現する。また、100種8000株の花で飾られたこの温室には、「花のオアシス」「森のオアシス」「憩いのオアシス」等名付けられたエリアにそれぞれ「癒し」と「憩い」を楽しめる「オアシス」があり、「水のオアシス」では、大分の名水を味わうことができるコーナーもある。

【遊びと癒しのエリア】「遊びと癒しのエリア」のわんぱく広場の一角には清掃センターの余熱を活用した「ぽかぽか池」が設けられ、中を裸足で歩きながら気持ちよさを体感することもできる。

【冒険エリア】会場入口周辺部の「冒険エリア」は、総延長60mの「ジャンボスライダー」や、誰でも簡単にできる「草スキー場」など、子供たちに緑の中でのびのびと遊んでもらえるエリアになっている。

## フェアの継承

おおいたフェア開催の構想段階から約４年。フェアは、単なる一過性のイベントではなく、大分県民の都市緑化意識を高揚させることが最大の目的である。そのため、できるだけ多くの県民の参加を呼びかけ、フェアの全県展開を行う。また、大分から全国へ花と緑のネットワークをつくり、今後も継承する。

# 九州

## 地域づくり・まちづくり その元気の源は？

# 「建築と社会」誌

## 特集一覧●1979~2000

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6348-0635、FAX 06-6348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

| 号 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1979 vol.60 | ●転換期の再開発＊ | ●大阪南港ポートタウン＊ | ●商業空間＊ | ●コンクリートのひびわれ | ●日影規則＊ | ●ホテル建築と情報システム | ●農村施設の変貌＊ | ●建築の終局強度の検討 | ●庄内のまちづくり＊ | ●80年代のインテリア＊ | ●第26回青年技術者＊ | ●建設業の労務事情＊ |
| 1980 vol.61 | ●80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望 | ●今後の省エネルギーの趨勢<br>●建築金物 | ●最近の銀行建築<br>●安井建築設計事務所作品集 | ●住宅の耐久性＊ | ●建築行政と法規＊ | ●最近の防水工法 | ●都市景観とアメニティ＊ | ●屋内体育施設の設備＊ | ●水ぎわのまちづくり | ●今後の外装吹付仕上材＊ | ●第27回青年技術者<br>●転機にたつマンション・集合住宅 | ●これからの建築設計と新耐震設計法＊ |
| 1981 vol.62 | ●職能論＊ | ●中国の論文―北京の都市計画＊ | ●ポートピア'81＊ | ●台所まわりの計画と設備＊ | ●シーリング材の知識＊ | ●災害と法―安全な環境をめざして＊ | ●都市住宅―住まい手からの発想＊ | ●建築物と風―デザイナーのために<br>●日建設計作品集＊ | ●住宅・都市整備公団―関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊ | ●間仕切壁の性能評価＊ | ●第28回青年技術者＊ | ●障害者の暮らしやすい環境と設備 |
| 1982 vol.63 | ●新たな商業空間の展開＊ | ●省エネルギーと開口部＊ | ●医療施設―地域医療と設備計画＊ | ●近畿の地盤と地質＊ | ●都市景観―まちなみ美観への誘い＊ | ●大阪市庁舎（第1期）＊ | ●ホール建築と音＊ | ●大スパン構造＊ | ●昭和設計作品集＊ | ●絵本にみるすまいとまちづくり<br>●オ・エム・ホテル日航ビル | ●第29回青年技術者<br>●地方の庁舎建築＊ | ●風土・空気と人間＊ |
| 1983 vol.64 | ●関西の建築文化を考える | ●マイコンの建築への利用 | ●多様化する運動施設＊ | ●建築と品質管理 | ●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション | ●大阪駅とターミナルビル | ●維持管理と設備更新 | ●東海の将来と文化を考える | ●オフィス・インテリアの変革 | ●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造 | ●第30回青年技術者<br>●大阪城国際文化スポーツホール＊ | ●集合住宅と生活音 |
| 1984 vol.65 | ●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う | ●関西の超高層ビル＊ | ●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―＊ | ●建設産業とロボット開発＊ | ●住環境と法制度 | ●まちの活性化と商業空間<br>●京都駅南口再開発ビル＊ | ●消防設備のポイント | ●みどりとそれをとりまく人々＊ | ●高齢化社会と生活空間 | ●床の構工法 | ●第31回青年技術者<br>●ディテールの思想 | ●光応用システムと建築 |
| 1985 vol.66 | ●大阪湾物語＊ | ●東海の現在と近未来 | ●自由様式への道―建築家安井武雄<br>●建築物の基礎を考える | ●情報化をめぐる建築・都市事情 | ●ホール―それが生みだす文化― | ●建物の表情―最近の外壁材料 | ●大阪国際見本市新会場 | ●建築と水の演出<br>●神戸研究学園都市 | ●都市と健康・スポーツ | ●接合―人体と建築にみる―<br>●日建設計作品＊ | ●村野藤吾の一断章<br>●伊勢湾をめぐる東海 | ●第32回青年技術者 |
| 1986 vol.67 | ●これからの住空間―都市型集合住宅にみる | ●屋根―そのデザインと素材 | ●現代デザインーポストモダニズム10年<br>●これからの防水工法 | ●インテリジェントビルの建築・設備計画 | ●自治体営繕と公共建築 | ●建築防災と法<br>●大阪市庁舎（第2期） | ●21世紀の住宅と設備 | ●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて―<br>●ツイン21 | ●CAD―その応用と展開 | ●オフィス空間の構成 | ●第33回青年技術者 | ●インテリア・イクステンションとリニューアル |
| 1987 vol.68 | ●入浴物語 | ●腐食 | ●創立70周年記念号 | ●躍動する東海へ | ●貯蔵・保管施設<br>●大阪府立体育会館 | ●室内の仕上床 | ●駅 | ●行政建築家の可能性 | ●シティホテルの設備 | ●宝塚の街づくり＊ | ●建物と町並みの接点<br>●昭和設計作品集 | ●第34回青年技術者 |
| 1988 vol.69 | ●ホテル物語 | ●軟弱地盤と基礎<br>●文化と伝統―東海からの報告 | ●設備におけるLCCとリフレッシュ<br>●東畑建築事務所作品集 | ●建物の外装リフレッシュ＊ | ●都心居住 | ●中国地方の展望とひろしまのまちなみ | ●21世紀への照明＊ | ●制振＊ | ●超高層住宅を考える | ●集合住宅のリフレッシュ＊<br>●大阪府営善 | ●第35回青年技術者<br>●800号記念＊ | ●讀賣テレビ |
| 1989 vol.70 | ●夢をのせる輸送設備 | ●リゾート事情<br>●竹中工務店創立90周年記念 | ●色の復権<br>●東海の新建築と伝統技術＊ | ●省力化のための材料・工法 | ●まちづくりと法 | ●博覧会とまちづくり | ●都市環境創造と設備I | ●建築とアート | ●構造の省力化<br>●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集 | ●都市環境創造と設備II<br>●ユーザー参加のハウジング | ●第36回青年技術者 | ●最近の博覧会パビリオン |
| 1990 vol.71 | ●商品化住宅のデザイン＊ | ●ニュータウン・ルネサンス | ●東海の都市景観<br>●佐賀市文化会館＊ | ●スケール感 | ●プレハブ住宅技術の現在と未来 | ●国際花と緑の博覧会 | ●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー | ●高強度化―設計の多様化をめざして―＊ | ●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割 | ●都市のナイス・プレイス・兵庫県営緒の歩み | ●第37回青年技術者<br>●和歌山県の展望と景観＊ | ●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材 |
| 1991 vol.72 | ●新しい都市空間づくり―I―<br>●オフィス・プレジャー<br>●新しい都市空間づくり―II―<br>●建築の風景 | ●東海支部復活30周年記念 | ●大阪東京海上ビルディング | ●今、京都<br>●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー | ●建築と土木<br>●毎日放送本社ビル<br>●近畿地方建設局営繕部 | ●一般号＊ | ●建築をめぐるトラブルとその解決<br>●建設現場のイメージアップ作戦 | ●空間のアイデンティティ<br>●きんでん写真集<br>●大建設計40周年 | ●自治体住宅政策への提言<br>●大林組創業100年記念 | ●建築と土木―構造技術の世界―<br>●第38回青年技術者 | ●スリムでタフなコンクリート<br>●21世紀の住まいを考えるシンポジウム |
| 1992 vol.73 | ●夢物語―人がかわる、まちがかわる― | ●こだわりのインテリア<br>●近畿の郵政建築15年の歩み | ●建築とデザイン―東海支部―＊ | ●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム― | ●地球環境時代の建築 | ●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年― | ●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊ | ●接着―建築分野への限りなき可能性 | ●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊ | ●屋台―仮設の魅力に学ぶ―<br>●ハウジングのメインストリームを探る | ●いま建築教育に何が期待されているか | ●京のかたちと色 |
| 1993 vol.74 | ●第39回青年技術者<br>●東畑建築事務所創立60周年記念作品集 | ●大阪府営緒 | ●東海の美術館・博物館 | ●市民劇場の舞台設備 | ●環境―限りある自然と建築とのかかわり | ●都市のスカイライン | ●映画の中のインテリア<br>●けいはんなプラザ・住友ホール | ●建築の再生―構造技術の役割―<br>●大阪市営緒 | ●国際的パートナーシップの可能性 | ●福祉のまちづくり | ●都市型住宅再考 | ●第40回青年技術者<br>●環境―人にやさしい空間創造をめざして |
| 1994 vol.75 | ●コピー文化の新時代<br>●広島の街創りアジア競技大会 | ●九州のインスタレーションと貌 | ●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊ | ●建築のエネルギーシステム | ●明日に向かって―会員作品＊ | ●いま、医療施設は | ●住空間における居どころへの視点 | ●まちなかの看板<br>●竹中工務店の集合住宅 | ●水と建築<br>●日本建築総合試験所 | ●建築設備のCGシミュレーション<br>●村野、森建築事務所 | ●構造美―建築の中の美<br>●集合住宅団地リニューアル | ●第41回青年技術者<br>●関西国際空港 |
| 1995 vol.76 | ●光がつくる風合の世界＊ | ●音―騒音から操音/創音へ | ●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊ | ●トイレから見た都市文化 | ●トイレ空間 | ●接合<br>●コスモタワー | ●ユニバーサルデザインとは | ●私の空間作法―会員作品 | ●新しい「都市・建築」の視点＊ | ●建築構造と社会の接点<br>●日建設計＊ | ●ライフラインと建築設備＊ | ●第42回青年技術者<br>●滋賀県建築課 |
| 1996 vol.77 | ●阪神大震災から学ぶ＊ | ●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊ | ●遠江―その地方振興と文化＊ | ●立体駐車場設備<br>●大建設計 | ●災害！非常時に生きる法体系<br>●OAPタワーズ | ●いま、プールがおもしろい | ●住まいの未来像 | ●マルチメディアがつくる世界 | ●キーコンセプトの新時代 | ●最新の大規模スポーツ競技施設の設備 | ●私の空間作法'96<br>●九州の元気<br>●りんくうの3作品 | ●第43回青年技術者<br>●近畿地建営繕部 |
| 1997 vol.78 | ●建築のロングライフ化をめざして | ●鉄ものがたり＊ | ●東海支部会員作品<br>●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊ | ●創立80周年記念/建築と私と社会―80人の眼―＊ | ●木造建築物の伝統技術とその将来 | ●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ―<br>●住都公団関西支社 | ●素材の不思議<br>●大阪ドーム | ●新エネルギー<br>●住宅・都市整備公団改革への提言 | ●クロスワード都市OSAKA＊ | ●モザイク都市の住むかたち<br>●昭和設計40周年 | ●私の空間作法―会員作品― | ●第44回青年技術者<br>●京都駅ビル |
| 1998 vol.79 | ●新しいまちづくりの予感<br>●東畑建築事務所創立65周年 | ●Concrete<br>●九州とわたし、そして建築 | ●東海支部会員作品<br>●信州―諏訪とその周辺― | ●街並みの演出―最近の外構材料 | ●生活環境の安全・安心 | ●地球環境保全と建築 | ●心と体を元気にするインテリア | ●建築設備―ビルメンテナンスの立場から | ●建築への証言'98―21世紀に向けて | ●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ | ●私の空間作法<br>●2001年の医療施設 | ●第45回青年技術者<br>●駅とともに歩んだ旧西日本の12年 |
| 1999 vol.80 | ●"らしさ"のデザイン<br>●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人 | ●大阪市都市整備局 | ●東海支部会員作品'99<br>●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築 | ●都市のパブリック | ●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる | ●大阪城天守閣平成の大改修 | ●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開― | ●私の目でみた環境問題 | ●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア | ●木とともに | ●私の空間作法 | ●第46回青年技術者 |
| 2000 vol.81 | ●21世紀のデザインの動向を見る<br>●安井建築設計事務所創業75周年 | ●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり― | ●東海支部会員作品2000<br>●越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ | ●こころを癒す環境デザイン | ●測る―測定方法と測定結果が意味するもの― | ●スケルトン&インフィル | ●改正建築基準法―パートII― | ●100年後へのメッセージ<br>●日建設計創業100周年 | ●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ― | ●時間 | ●私の空間作法―会員作品―<br>●21世紀の高齢者の居住環境 | ●第47回青年技術者 |

＊は欠号

# 法善寺横丁への連担建築物設計制度の適用

森岡哲生
大阪市住宅局建築指導部指導課主査

昨年９月９日未明に起きた大阪市中央区道頓堀の旧「中座」の火災で類焼した「法善寺横丁」は、なにわ文化の魅力にあふれた重要な場所であることから、各方面の人々から法善寺横丁のまちなみの復興を求める声が多く寄せられた。また、地元からも従来のまちなみを取り戻していくためには現状の道路幅員で再建することを最重点課題として、30万人に近い署名とともに要望を受けた。

９月下旬、大阪市としては、現行の建築基準法の範囲内で種々検討し、現状の道路幅員に近い形でまちなみを再建するためには「連担建築物設計制度」（以下「連担制度」）を適用することが唯一の方法だと考えた。連担制度を活用するにあたっては、建築基準法第86条第２項及び施行令第10条の17において「現に存在する建築物の位置及び構造を前提として、安全上、防火上及び衛生上支障がない」という規定に適合しなければならないが、復興に際しては早急に取り組む必要があり、速やかに連担制度を適用するための条件を策定するために、大阪市建築指導部内においてプロジェクトチームを組んで対応した。

その結果、次に掲げる連担制度の認定条件を確定し、10月30日に地元復興委員会の会議において内容を説明した。

## 連担制度を適用する設計条件

(1) 通路幅員を2.7ｍ以上とする。
(2) 対象区域は、通路に面するすべての建築物の敷地を含んだ区域とする。
(3) 対象区域内の建築物は以下のとおりとする。
①通路には屋根、庇などを突き出さない。
②容積率は、240%とする。ただし東西の認定道路に接する敷地については、この限りではない。

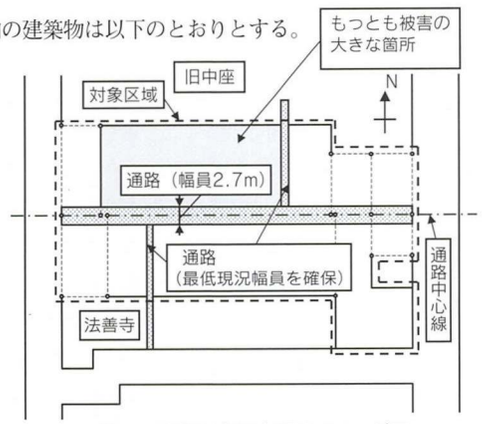



図１　連担制度認定区域イメージ図

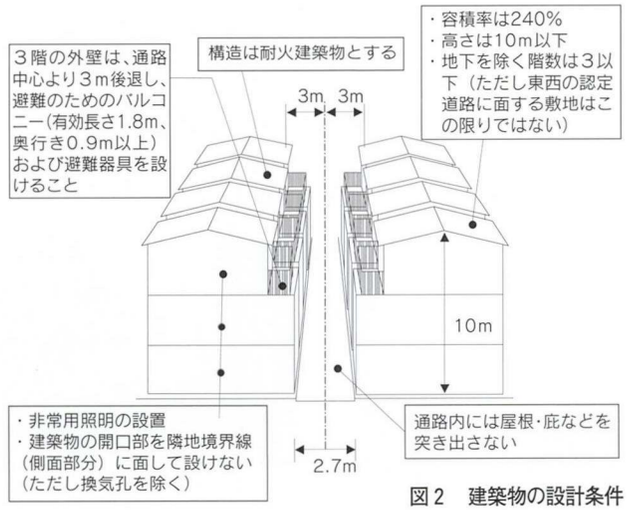



図２　建築物の設計条件

③高さは10m以内、地下を除く階数は３以下とする、ただし東西の認定道路に接する敷地については、この限りではない。
④３階の外壁は、通路中心より3.0ｍ以上後退し、奥行き0.9ｍ、有効長さ1.8ｍ以上の避難のためのバルコニー及び避難器具などを設けること。
⑤構造は耐火建築物とする。
⑥区域内の建築物の敷地が隣接する側面部分（通路に面する部分を除く）に面して、換気孔を除く開口部を設けてはならない。
⑦建築基準法第35条に規定する非常用照明を設置すること。

## 建築協定の締結

法善寺横丁の風情、景観を残し、安全で安心なまちなみを再建するための地元関係者の自発的総意に基づいた建築協定を締結することを、認定条件に追加した。
①法善寺横丁の風情、景観などに配慮した意匠とすること。
②区域内の安全性、防火性を確保するため維持管理に努めること。
③看板などの設置については、通行上、安全上支障のないように配慮すること。
④風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律第２条第８項第５号に掲げる「性風俗関連特殊営業」の用途に使用しないこと。

## ２項道路の廃止

当時、法善寺横丁は建築基準法第42条第２項に規定される道路であり、「連担制度」の対象となる一体の敷地には該当しないため、まずこの道路を廃止する必要があった。

ただし、先に廃道にすれば既存不適格になるため、連担制度と同時に行う必要があった。

## 法善寺横丁再建に向けて

このように、「道路の廃止」「連担制度の認定」「建築協定の締結」の手続きはいずれもが、各所有権者すべての同意が必要となっており、これを短期間に取りまとめた法善寺横丁復興委員会をはじめ地元の努力や各方面からの支援により12月下旬には一連の手続きが終了し、一部分の建築物において年明け１月には建築確認処分もされ、すでに工事着工している。

大阪市としても法善寺横丁のいち早い復興を望んでいるが、今回の連担制度の適用については、横丁の再建を望む多くの声を受け、商業地域で行う特例的なものとしている。

最後に、地元の方々の法善寺横丁への愛情の総意である「法善寺横丁まちづくり憲章」を紹介したい。

法善寺横丁まちづくり憲章

一、　わたしたちは、全国の人々からのあたたかい支援・署名を忘れることなく、良き大阪の伝統を守りつつ、また、新たな文化を生み出す役割を担います。
一、　わたしたちは、人間味ある空間である横丁を守り、看板などが生み出すミナミの象徴である景観を大切にしていきます。
一、　わたくしたちは、人と人とのつながりを大切にし、法善寺境内の一人一人がよく協力して知恵を出し合い、このまちづくり憲章を実践します。
一、　わたくしたちは、今回の復興の経験をいかして、他所（よそ）のまち（街）の力となるとともに、次の世代に語り継ぎます。

（もりおか　てつお）

# SM-Jパイルを用いた超近接施工例

芦原康裕
住友金属工業㈱鋼板・建材カンパニー建設技術部次長



SM-Jパイルは、従来工法ではなしえなかった超近接施工を実現する新形状の山留め鋼材である。SM-Jパイルと専用圧入機「ゼロパイラー」の組み合わせによるゼロクリアランス工法は、隣接構造物と山留め工とのクリアランスを極限まで小さくすることで山留め施工でのデッドスペースをなくし、土地の有効利用や、これまで施工不可能であった条件下での山留め・掘削工事を可能とする。

本稿では、建築分野で活用した超近接施工事例について紹介する。

## ゼロクリアランス工法の概要

ゼロクリアランス工法は、SM-Jパイルと専用圧入機「ゼロパイラー」の組み合わせにより可能となる。

**●SM-Jパイル**

SM-Jパイルの形状を**図1**に示す。

ハット形の形状と左右非対称な継手により、嵌合させた状態で凹凸が一方向に揃うこと、有効幅が600㎜であり、一般仮設山留めに用いられるⅢ型、Ⅳ型鋼矢板（有効幅400㎜）と比べて施工枚数が少なくてすむことなどが従来U形鋼矢板と異なる（**図2**）。

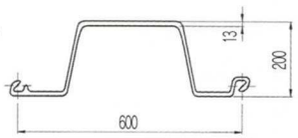



**図1　SM-Jパイルの形状**

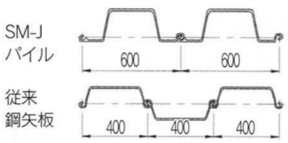



**図2　嵌合状態**

なお、化学成分、機械的性質、寸法精度とも、すべてJIS A 5523溶接用熱間圧延鋼矢板の基準値を満足しており、繰り返し転用性、止水性についても従来のU形鋼矢板と同等の性能を有している。

互換性については、従来のU形鋼矢板Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型、ⅢW（広幅）型鋼矢板との嵌合が可能であり、超近接施工が必要な部分でのSM-Jパイルと、それ以外の部分の従来U形鋼矢板との併用も可能である。

**●専用圧入機「ゼロパイラー」（写真1）**

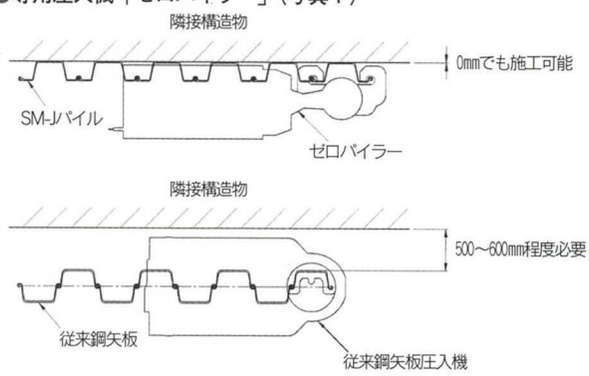



**図3　「ゼロパイラー」、SM-Jパイル隣接構造物の位置関係**



**写真1「ゼロパイラー」**

専用圧入機「ゼロパイラー」を**図3**に示す。本機は、SM-Jパイルを施工するための特殊な把持装置により、圧入機本体がSM-Jパイルの外縁（隣接する構造物、敷地側となる）よりも突出することなく打設可能である。また油圧により駆動されるため、無振動・無騒音施工が可能である。アースオーガ併用により硬質地盤での打設にも対応している。

## 建築分野における超近接施工事例

**●九歓清興ビル別館**

本物件は、福岡市内において、敷地面積を最大限に利用した建築を行うためにSM-Jパイルが採用された事例である。**写真2**に示すように、敷地境界いっぱいに建物が隣接しており、ここに地階部分を構築する際、従来鋼矢板等による山留めでは土留め外側に500～600㎜程度の施工スペースが必要となるところを、SM-Jパイルとゼロパイラーによるゼロクリアランス工法によって施工スペースをほぼゼロとしデッドスペースを解消、敷地面積いっぱいに建築を行ったものである。

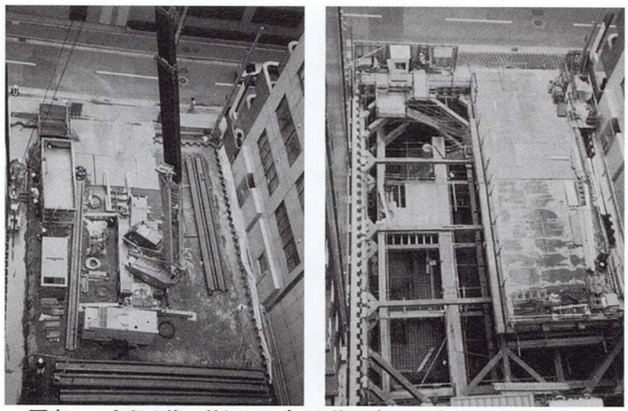


**写真2　山留め施工状況―Jパイル施工中(左)と掘削後の状況(右)―**

**●Manchester Squareでのドライエリア**

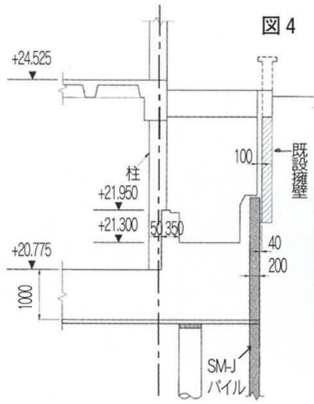
ロンドン市内において、既設建築物の撤去・新築に使用された例である。ロンドン市内においては、通常、既設建築外装材を流用・再利用するなど従来の外観を損なわないような配慮（レトロフィット）がなされており、本物件は既存ドライエリアの擁壁部分（外装材に煉瓦を使用）を残して敷地内に基礎を構築するための山留め工事に、SM-Jパイルの超近接施工性が有効に利用された例である。

**写真3**は施工状況、**図4**はドライエリアの断面である。既設ドライエリア擁壁とSM-Jパイルとのクリアランスは約50㎜である。なお、既設煉瓦はSM-Jパイル打設中の損傷を避けるためいったん解体し、後ほど復旧している。

＊

SM-Jパイルが、狭隘地での建築の可能性に少しでも貢献することを願って止まない。

**図4　ドライエリア断面図**



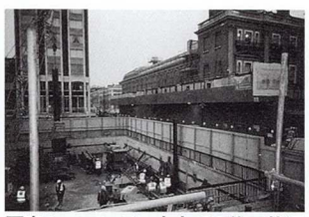



**写真3　ロンドン市内での施工状況**

（あしはら　やすひろ）

# BEMSの概要と省エネルギー

川又英生
山武ビルシステム㈱技術サポートセンター計装グループ

現在、ISO 14000や省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）などに代表されるように、省エネ活動は各方面で盛んになっている。ビルにおいても例外ではなく、BEMSを導入し省エネルギーを実現することが求められ、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）では加速的な促進を目的として、必要な費用に関して補助金を交付する事業を行っている。

## BEMSの概要

BEMSとは、Building and Energy Management Systemの略である。空気調和・衛生工学会では第68巻第2号で、「設備の運転管理や建物・施設の管理を行うシステムであり、もって建物運営管理の効率化、環境の質の向上、エネルギー利用の合理化に供しえるシステム」と定義しており、ビル管理システムとも呼ばれている。

BEMSでは電気・空調・照明・防災・防犯の諸設備の操作や監視、室内温度等の設定・計測、エネルギー使用量の計量等を集中監視し、その情報を利用し各種制御を行っている。それにより、（1）管理・運用業務の効率化（2）省エネルギーの実現（3）快適環境の提供（4）安全性の向上（5）居住者の利便性向上を実現することがBEMSの目的である。

BEMSの一般的な構成を図1に示す。

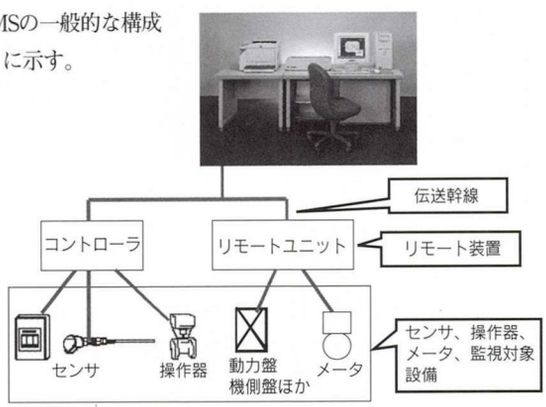



図1　BEMSの構成

## BEMSの変遷

BEMSは、社会環境の変化や技術の進歩、時代背景とともに求められるニーズに合わせて高機能化されてきた（図2）。

1960年代は監視主体のシステムであり、機械室や電気室の諸設備の情報を一局集中することにより管理の効率化を実現した。その後オイルショックがきっかけとなり、1970年代から1980年代にかけて省エネルギー機能を実現した。

1980年代後半からインテリジェントビルというコンセプトのもと、それまで個別で管理していた防災設備や防犯設備等を一元管理・制御することにより、安全性の向上を図るシステムを実現した。具体的には火災時の非常扉のパニックオープンや、侵入者を検知した際の照明点灯制御などである。同時に電話系の通信技術を用いることにより、居住者がIC電話機を利用し居室の温度設定変更や空調時間帯の延長等を行えるようになり、居住者の利便性向上を実現した。

1990年代からは、急速に普及し始めた汎用コンピュータや通信技術を採用したシステムが出現した。

1990年代後半からは、グローバルスタンダードの流れもあり、

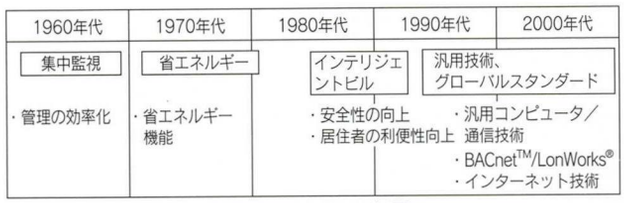



図2　BEMSの変遷

BACnet™やLonWorks®などの通信技術が開発された。これらの通信技術を採用することにより、従来個別線で取り合いする方式と比較し、より詳細な情報がローコストでBEMSに取り込むことが可能になった。また、Webやe-mailといったインターネット技術を利用することにより、監視室以外（例えば自宅や外出先）での管理も可能になった。

今後は、BACnet™やLonWorks®でシステムに取り込んだ情報により高度な制御の実現が可能となり、またインターネット技術を活用することにより、管理の質の向上が期待されている。

## BEMSを利用した省エネルギーの実現

省エネルギーを実現するためには、まずエネルギー使用量のモニタリングが必要である。モニタリングを行うためにはやみくもに計量メータを設置するのではなく、運用段階でどのようにエネルギー使用量を把握していくのかを考慮し、適切な計測計量計画を立案することが重要である。その上でPDCA（PLAN-DO-CHECK-ACTION）サイクルを用いることが効果的である。図3に、某ビルの夏期における1時間ごとの受電電力量をヒストグラムにしたものを示す。この例では140kWhを超える頻度が少ないため、契約電力を削減できると判断し、対策を講じた。この例を用いて、各ステップを説明する（図4）。

このようにエネルギー使用量や設備の稼動状況等の情報を有しているBEMSは、省エネルギーを行うための有効なツールである。

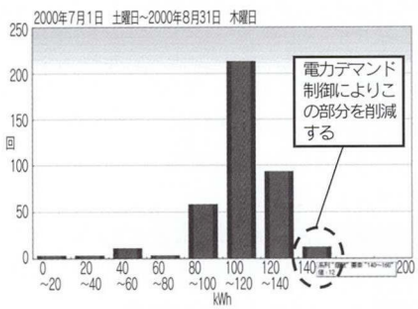
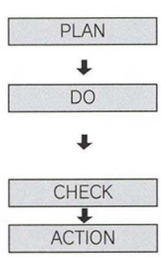



図3　受電電力量ヒストグラム




PLAN　具体的な対応策や目標値を設定する。
（例：受電電力の契約を160kWから140kWに変更する）

DO　対応策を実施する。
（例：電力デマンド制御を導入し、夏期ピーク時に不要な動力を停止する）

CHECK　エネルギーの使用量を確認する。

ACTION　目標値が達成されているかどうかを確認する。また、省エネルギーを実現できても、設備の本来の目的である居室の快適環境が損なわれては意味がない。したがって設備の稼動状況も確認する必要がある。達成できていなければ、問題点を明らかにし、新たな対応策を立案し、達成できていればさらに高い目標値を設定する。

図4
省エネルギーのPDCAサイクル

参考文献　川又ほか「実用化を狙いとしたBEMSの開発（その6）」
空気調和・衛生工学会学術講演会　2001.09

（注）BACnet™はASHRAEの登録商標　LonWorks®はECELON社の登録商標

（かわまた　ひでお）

研究を最前線で追う

# 13 視覚特性に基づいた視環境設計法

建築環境工学第Ⅱ研究室
関西大学工学部建築学科

光環境には日当たりや日影の制御といった建築物や配置計画にかかわるいわゆる日照制御に関するものから、室内を対象とした、在室者にとって良質な作業空間を提供するための視環境計画さらには雰囲気形成に関するものまでテーマは多岐にわたっている。ものを見るためには光が必須であり、目的に応じた光の効果的な配分は日常生活に欠かすことのできない重要なテーマである。

本研究室での一連の研究は、現実に起こり得る光環境の下での人の視覚特性に基づいた視環境設計法の確立を最終の目標としている。

## 視覚特性に基づいた視環境設計法の追求

### ■作業対象物の視認性に関する研究

眼球光学系での散乱を考慮した網膜への実効的な刺激を実効輝度と定義し、この実効輝度を視覚系への入力とすることで、視対象の大きさや形状による視認性の差異を合理的に解明することが可能となった。視認性に関する既往研究は、視野の輝度分布が一様な実験空間において得られたものが大半であり、グレアのような輝度分布が不均一な空間での視認性に関しては、個別的な実験的研究は存在するものの、理論はいまだ確立されていない。均一視野における視認問題の解明にその有用性を確認した実効輝度の概念を、一般の不均一視野における視認性の解明に拡張し、任意の視野における視対象物の視認性を統一的に解釈できる理論の構築を目指している。

### ■視野の順応輝度の定量化に関する研究

人の視覚特性はその場の明るさに左右されるため、視環境設計に当たっては、人が順応している明るさのレベル（順応輝度）の把握が必須となる。均一な輝度分布を有する実験空間の場合はその背景輝度がすなわち順応輝度と考えられるが、種々の物体が混在する現実空間に対する順応輝度の決定法はいまだ確立されていない。

本研究では、任意の空間における視対象物の視認閾測定結果を均一視野（実験空間）下での視認閾測定結果と関連づけることにより当該空間に対する順応輝度を特定しようとするものである。

### ■視野輝度変動が作業性に及ぼす影響に関する研究

時刻とともにその強さや分布が複雑に変化する昼間の光環境における作業性の系統的な研究は未開拓の分野である。昼光の変動実態に関しては、データが皆無に近い秒単位での昼光照度の実測を継続し、その実態を把握することを試みている。また、視野の輝度変動が視作業性に及ぼす影響に関しては、任意の変動パターンを与え得る視野装置の作製とそれを用いた主観評価実験に取り組んでいる。

### ■有彩色視対象の視認性に関する研究

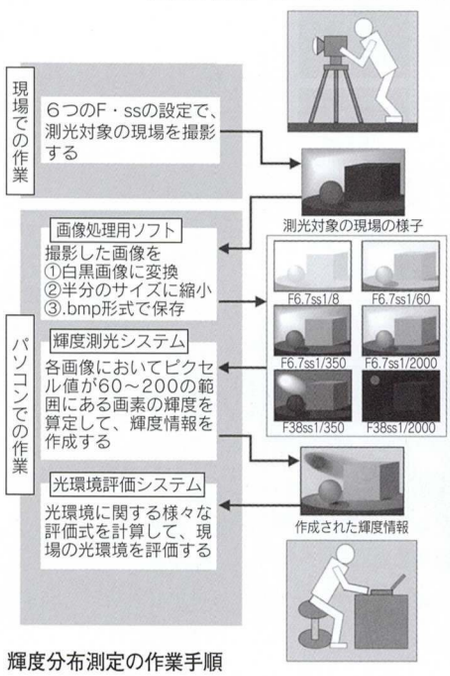
光には色が必ず付随する。視環境計画に当たっては色の影響は避けて通れないものであるが、解析の際の要因数が膨大となることから、視認性への影響に関する知見は不十分である。種々の有彩色視対象を用いた読みやすさ評価を、多くの知見が存在する無彩色視対象物の評価と対応づける方向で基礎データの収集に取り組んでいる。

### ■各種材料の光学反射特性に関する研究

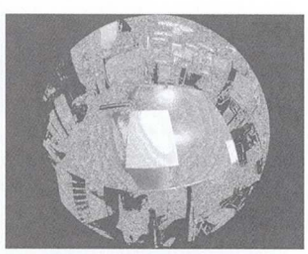
視野内輝度分布と視対象・光・空間の構成要素の諸要因との関係を明らかにするためには、対象空間の表面を構成する各種材料の光学反射特性を知る必要がある。必要とされる反射特性は材料面に対する光の入射方向の方位角と高度、反射方向の方位角と高度の4変数で規定される輝度反射率であり、その特性の把握が煩雑なことから十分に検討されなかった経緯がある。この特性を実測し材料特性に対応付けた簡易計算法を確立することで視対象・光環境から視野内輝度分布をより正確に算出するための資料が得られると考えている。

### ■視野の輝度分布測定法の開発に関する研究

視環境評価の基本測光量は空間の輝度の分布であるが、市販の輝度計を用いた逐点測光によって詳細な分布情報を取得するのは非常に煩雑な作業となる。このため、従来一部で用いられていた写真測光による輝度測定法の電子化を試みた。当初はビデオカメラの画像をデジタル化することを試みたが、近年のデジタルスチルカメラの急速な普及に伴い、デジタルカメラを用いて作業の簡易化と精度向上を図っている。当研究室で開発したシステムはデジタルカメラに魚眼レンズを装着することにより前方180度の視野の輝度分布が短時間に高精度で把握が可能である。実空間の視環境評価に当たっての強力なツールになるものと考えている。




輝度分布測定の作業手順



室内輝度分布の測定結果を記録した輝度情報図の例
（6枚の画像から算定した各画素位置の輝度を記録したもので、画素の色と輝度の値とを対応づけている）

●研究室のひととき

研究室の雰囲気は、野口先生の人柄が滲み出ているかのように和やかで、いろんな個性を持つ人が集まりながらも和気あいあいとしています。助手の原さんもゼミでは真剣ですが、お酒が入ると良い兄貴分といった感じで、非常に居心地のいいところです。（院生OB談）

連絡先
吹田市山手町3-3-35
Phone:06-6368-1121 Fax:06-6339-7720
http://kaiwaka.arch.kansai-u.ac.jp/kankyo2-5.htm



野口太郎教授（前列中央）、原直也助手（その左）と研究室

●研究スタッフ

野口太郎／1943年生まれ
- 専攻／建築環境工学・光環境計画
- 研究テーマ／実効輝度を用いた視認性解析とその視環境設計への応用、光環境の現場評価技法の開発

原直也／1970年生まれ
- 専攻／建築環境工学・視環境計画
- 研究テーマ／有彩色文書の明視性、輝度の経時変動状態での主観評価

8 3 4 1 見 蕾 √ひとよ 8 7 4

# やさしいケンチク数学ばなし

山田 修
修 建築事務所

## 0の役割

0には、つぎのような三つの役割がある。

① 無を表す
② 空位を示す
③ 基準点や均衡を表現する

①の無は、哲学的なコトバだ。通常は、現存しないこと、効果のないこと、を表す。

0は、6世紀にインドで発見（7世紀初め、インドの数学者ブラマグプタの書物の中に次式が書かれている。a×0＝0、a＋0＝a、a－0＝a）、使用されたことは、仏教にも通じるものがあった、と推察する。0の字形が仏像の姿にも似ているからだ。

0にまつわる逸話は数多い。古くは、日本にも『零の発見、吉田洋一著、岩波新書1939年』という通俗的読物の本があった。名著であり現在も版を重ねている。興味のある方は、ご覧のほどを……。

②の0は、自然数（自然数でない、という人もいる）のなかで、数（モノの順番・個数などを示す）をもたない数字である。

0に自然数を加減しても、その値は変わらない。が掛けると相手を0にしてしまう不思議な力をもつ。ちょうどトランプのジョーカーの魔力を思い出した。空位なのに物すごい力を出すからである。

③の0は、自然数の基準点（数直線では原点）だった。0は、正と負の境界点の数で±0と表現する。モノゴトを進めるとき、うまくいかなかった場合には「原点（0点）に戻れ」というではないか。

## 0は偶数である

「0は奇数か偶数か」の話題は、チマタでよく耳にする。

大人に聞くと「偶数」とイッキには答えられず、しばらく考えてから「偶数だったと思う」との回答が返ってくる。その理由は……と聞けば「2で割れるから……」と自信なさげである。

自信のある人は「0は自然数でないから、奇数でも偶数でもない」「0は数字ではない。数をもたないという一つの記号である」と答える。が、これはヘリクツというもの。

ところが、子供は自信たっぷりに答えてくれた。わたしは、I小学校の図書室を訪ね、読書中の男児2人（6年生と5年生）に確かめた。

「0は偶数である」「0は偶数に決まっている」と、キッパリ回答する。これには驚いた。

理由を聞くと「5年生で習ったよ」「塾の先生が面白く教えてくれた」とのこと。「1は奇数で、その両隣りは偶数である。数字は奇数と偶数が交互に並んでいる」の答には敬服した次第。すると、大人は小学校のときに習ったことを忘れてしまっているのだ。「忘却とは忘れ去ることなり」である。

## 0の検証

筆者は、0を検証するべくT市にある教育綜合センター（I市の教育委員会の紹介）を訪れた。

あった！　小学校5年生の「算数上」の教科書（平成14年度用）に……。うれしかったなァ、わたしにとっては「0の発見」である。

カラー刷りの頁には、数直線が0～20と並び、偶数は□で囲んだ朱色、奇数は○で囲んだ青色、で示されていた。木のハッパに似せて（葉軸を中心にしてハッパを左右交互に描く）表示した本もあった。

そして「0は偶数といいます」と明記している。さらに「整数を2でわったとき、わりきれる数を偶数といい、わりきれない数を奇数といいます」が目にさわやかにとびこんできた。『0は2で割れるか』が疑問として残ろうが、これはハッキリと割れる。

余談だが、小学校の教科書の説明は、明瞭にして簡潔である。一目瞭然だった。当文も、この説明文のように記述しなければ……と自省した次第。




写真　ＪＲ大阪駅の0番ホーム

0番ホームは俗称である。かつては、そのように呼んでいた。が、いまは「環状外回り・環状内回り（駅員の言）」と呼ぶ。その通りで0番の表示はない（東京には0番と表示した駅がある。京都駅には0番線が健在）。0は偶数だから、外回り・内回りの2ホームを含めて「0番ホーム」と呼ぶのは理にかなっている。環状は輪（0）を表すからピッタリの表現だ。

# 文化財建家における学ぶかたち

三軒　齋
姫路工業大学名誉教授

登録有形文化財畑田家住宅では、家を使いながら保つこと、すなわち、動態保存の一環として、住宅の公開、「畑田塾」、文化フォーラムを実施している（建築と社会、2002年6月号、48-49頁）。去る2002年11月17日、文化フォーラム「アフガニスタンの美術」を実施したところ、参加者の一人姫路工業大学三軒齋名誉教授から下記のような感想が寄せられた。文化財の動態保存活動の意義と期待される効果を明快に伝える文章で、今後の文化財活用保存の参考になると考え紹介する次第である。　（畑田耕一／畑田家当主）

秋庇　風のやさしさ　真上より

平成14年11月17日、羽曳野市郡戸の登録有形文化財「畑田家住宅」で詠んだ拙句です。「住宅」より「家」と呼ばせていただいた方が私にはしっくりくるその家は、格調有る白漆喰の佇まいと日本家屋の伝統を活かしたおおらかで優美な母屋の大屋根、歴史の艶を重ねた大黒柱と梁架構、謹直・素朴な農耕を偲ばせる納屋の姿、重厚な2棟の蔵などが、優しく、温かく、懐かしい和みを湛えておりました。

当日、畑田家では一般公開と文化フォーラムが開催されました。単に屋敷の公開のみに留まらず、文化フォーラムを一つの機軸にした当主畑田耕一教授の趣向は、心憎く、また絶妙の配剤でもあります。120余年の年輪を重ねた客間で、ある者は畳の上に、ある者は縁側の椅子に座して、文化の極致とも言うべき講話に耳を傾け、真摯に、しかしシャープな感性と洒脱な諧謔を交えた当主の当意即妙の司会に乗って、のびのびと見解を吐露しています。文化財建家の屋根の下、畳敷きの大居間でフォーラムを開いて、文化の匂いを堪能し見識を磨くといった企ては、日本中探してもそう沢山にはない、否、ここ「畑田家住宅」以外皆無ではないでしょうか。そして極端な話、居間のそこここに寝転がって文化論を展開していても決しておかしくない様な、渾然として不思議な融和感が漂っているのも醍醐味の一つでしょう。生きた教育。知的興味の喚起。討論の中での自己の確立。現今、希求され、叫ばれている「学ぶかたち」そのものの設定に、当主の真骨頂を垣間見た思いでもありました。

失礼な表現ながら、フォーラムの語り部がまた絶品でありました。当日は大阪大学総合学術博物館長の肥塚 隆教授。文化財を背景に、アフガン美術と文化についての蘊蓄をご披露下さると聞き、千里の道も遠しとせず駆けつけた畑田家保存会の連衆で、居間は快い興奮に満ちていました。



講演の題目は「アフガニスタンの美術―文明の十字路の古代と現代―」。充実感がありました。ソ連の侵攻以前の1970年代に、バーミヤーンの大仏（近年破壊さる）を含む仏陀立像及び坐像・石窟・洞壁画などのアフガンの古代美術について…ある時は百余尺の仏陀立像の頭部にまで自身で登られて検分なさるなど…教授ご自身が撮影されたスライドを基に紹介をされ、実証の迫力と論調は追随を許さぬ見事なものでした。

歴史の必然性、文化に対する価値観の相違に起因する宗教と民族の対立、自然環境の影響、農耕・騎馬民族の生命観の必然性と生活感など、異文化の対立と交流を巡って議論は有意義に展開し、フォーラムは一気に盛り上がりました。異文化を、遺蹟を、如何に護るかは民族、国家を超えた人類の課題であって、環境悪化の現在、喫緊の要事となっていることは論を俟たないところです。

近年、多くの貴重な遺蹟が崩壊または消失したことの理由の一つは、民族に歴史観が希薄であったためではないでしょうか。そして、それは、貧困と教育不在のため文化の価値や芸術性に対する知的な接近に乏しく、文化を尊重する土壌を持たないことに起因すると考えて良いでしょう。矜持を持って自国の文化を尊重し、それを継承するためには、先ずは自国に留まらず世界規模の歴史観と、その文化の精神性を伝承する使命感とを具えていなければならないというのが私の持論です。矜持を持たないところに文化の伝承はありませんし、使命感を持たないところに文化の繁栄はありません。

フォーラムを終えての帰路、久々に快い興奮に酔っておりました。

三軒　齋（さんげん　おさむ）
1931年（昭和6年）生まれ。
姫路工業大学名誉教授、前兵庫県立但馬技術大学校長。
専門分野は高分子化学、現役時代は「熱可塑性エラストマーの合成と物性に関する研究」に従事。定年退職後の現在、傾倒する新渡戸稲造博士の、足跡と特にその高著「The Soul of Japan」の学習を修行の対象としている。



畑田当主の絶妙の司会でフォーラムは始まった



肥塚教授からアフガン美術・文化について迫力ある講演を聞く

## 渡辺邦夫＋構造設計集団〈SDG〉展示会

海の博物館、幕張メッセ、東京国際フォーラム、札幌メディアパーク・スピカ、ウルサンサッカースタジアム、そして横浜港国際旅客ターミナルと、話題の建築物の構造デザインを次々と新鮮な感覚で展開する〈SDG〉の作品展示会が京都で開催される。

日時　2003年3月17日(月)～28日(金)
9:30～18:00
日曜・祝日は休館〈入場無料〉

場所　学芸出版社1階ギャラリー
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
＊JR京都駅より徒歩5分

※会期中、3月22日(土)15:00より、渡辺邦夫氏の講演会が開催される。詳細は本号「会告」欄に掲載。


東京国際フォーラム


横浜港国際旅客ターミナル

## 公開セミナー「犯罪に強い住まい・街づくり」

急激な犯罪増加に対して今後の住まいや街づくりはどうあるべきか、先進事例に学ぼうという日本建築学会近畿支部住宅部会の公開セミナーが開かれる。

日　時　2003年3月28日(金) 13:30～16:30
会　場　大阪市立大学文化交流センター・ホール
大阪市北区梅田1-2-2-600
大阪駅前第2ビル6階　TEL 06-6344-5425
定　員　120名（定員になり次第締切）
参加費　1,000円（資料代含む）
申込先　奈良女子大学生活環境学部住環境学講座／瀬渡章子（TEL 0742-20-3479、FAX 0742-20-3477、e-mail:seto@cc.nara-wu.ac.jp）あてに、参加希望者は氏名・所属・連絡先住所・TEL/FAX・mailアドレスを明記して申し込む。

●講演「犯罪に強い住まい・街づくりとは」／小出治（東京大学大学院工学研究科教授）
●報告「防犯性の高い戸建住宅の開発と課題」／横山勝美（パナホーム設備内装部電気設備グループ）
●報告「防犯に配慮した共同住宅の取り組み」／小堀隆治（都市基盤整備公団関西支社市街地建築課長）
●報告「安全・安心のまちづくりの取組み」—神戸市

## IMI Festival 2003

今春は「未来せんきょ」と題し、トークイベント、ワークショップ、展覧会などがインターメディウム研究所、また神戸CAPHOUSEなどを会場に開催される。

詳細は、IMI Festival実行委員会（TEL 06-6816-4563、http://www.iminet）へ問い合わせられたい。

■「場所とデザイン　精華小学校と法善寺横丁界隈」
日時　2003年2月15日(土) 14:00～15:30
会場　旧精華小学校304教室
講師　奥村昭夫（グラフィックデザイナー）
料金　500円（予約）、800円（当日）

■「関西におけるアートスペースの未来」
日時　2003年2月23日(日) 16:30～18:00
会場　CAPHOUSE（旧神戸移住センター内）
講師　藤本由紀夫（アーティスト）十下田展久（CAPディレクター）十椿昇（アーティスト）
入場　無料

■写真講座「空×実—写真が見えるWS—」—参加1,000円
日時　2003年3月8日(土) 13:00～17:00
会場　CAPHOUSE（定員24名）
講師　畠山直哉（写真家）

■建築講座「現代建築の未来と可能性」—参加500円
日時　2003年3月9日(日) 18:00～19:30
会場　インターメディウム研究所（定員100名）
講師　川崎清（建築家）十竹山聖（建築家）

■「未来のくらし」（仮）—参加500円
日時　2003年3月16日(日) 18:00～19:30
会場　インターメディウム研究所（定員100名）
講師　塚本由晴（建築家）十中村政人（アーティスト）

■建築展示「詩人の家～現代建築の可能性と未来～」
会期　2003年3月1日(土)～23日(日)
会場　インターメディウム研究所内
展示　万博公園内にある国立国際美術館は機能を大阪市内中之島に移し、現建物は取り壊されようとしている。この建築に「詩人の家」という新しい要素を入れることで新しい可能性を探る。

## アイカ現代建築セミナー

第51回セミナーは、建築家・隈研吾氏を講師に名古屋で開催される。テーマは「建築の環境化は可能か」。

日時　2003年3月14日(金) 18:30～20:30
会場　今池ガスホール（定員356名）
名古屋市千種区今池1-8-8　今池ガスビル9階
入場　申し込み制・入場無料
申込　氏名・年齢・勤務先住所（学生は自宅住所）・勤務先名（学校名）・電話番号を明記し、下記ホームページへ2003年2月25日（火）18:00までに申し込む。応募者多数の場合は抽選とし、入場券の発送により通知する。
http://www.aica.co.jp/seminar/または
http://www.kenchiku.co.jp/aica/

## 産業技術史講座・世界に類のない日本の「工業化住宅」

日本の大手プレハブメーカーは独自に技術開発や商品開発を行い、工場で部品を作って建築し、入居者へのアフターサービスや維持管理まで、総合的事業展開を行っている。しかし、こうした優れた住宅技術を持っている割には、日本の住環境や町並みは良くなっていない。

国立科学博物館では、人間の生活や成長に最も大切な「住まい」のあり方を考える“産業技術史講座”を開催する。

日時　2003年3月15日(土) 14:00～16:00
会場　国立科学博物館上野本館・みどり館5階
特別会議室
東京都新宿区百人町3-23-1
講師　加藤善也（ミサワホーム株式会社専務取締役）
募集　40名（高校生以上一般向け）
申込　2月22日締切（消印有効）。
往復ハガキまたはe-mailで①3月15日:産業技術史講座②参加者氏名③住所（返信用にも）・メールアドレス④TEL⑤年齢⑥学年or職業を記入して、下記へ。応募者多数の場合は抽選。
国立科学博物館教育部企画課
〒110-8718　東京都台東区上野公園7-20
TEL 03-5814-9875
e-mail:sts@kahaku.go.jp

## 「石井修を囲んで」

目神山の住宅をはじめ、緑を取り込んだ設計で知られる建築家、石井修氏を様々なかたちで語ることにより、住宅、建築のあり方、その可能性をさぐり、関西で建築をすることの意味などを議論しようというもの。

日　時　2003年2月28日(金)
会　場　大阪市中央公会堂　大阪市北区中之島1丁目
定　員　250名（先着順または抽選）
参加費　1,000円

●第一部（18:00～19:15）―鼎談―
石井修×石堂威（都市建築編集研究所）×竹原義二（無有建築工房）＋スライド約30枚

●第二部（19:30～20:45）―ディスカッション―
遠藤秀平（遠藤秀平建築研究所）×木下光（関西大学工学部専任講師）×本多友常（和歌山大学工学部教授）×吉井歳晴（WIZ ARCHITECTS）＋スライド

●第三部（20:45～21:15）―鼎談―
石井修×石堂威×本多友常

問い合わせは、日本ベルックス㈱「石井修を囲んで」事務局（TEL 03-3478-8144）へ。

## 吹田の「西尾家住宅」のいま

相続税として大阪国税局に物納申請された後、活用方法が決まっていなかった「西尾家住宅」は、地元住民の保存運動の結果、収納された後、新年度から国が吹田市に有償で貸与することが、この1月に決まった。

吹田市では防火設備を整備した後、一般公開し、「国の重要文化財の指定を目指す」としている。

旧仙洞御料庄屋屋敷「西尾家住宅」は、約4,500㎡の敷地に木造平屋の母屋（663㎡）と離れ、茶室、土蔵などが建つ明治から大正にかけての和洋折衷の建築群。武田五一の手がけた離れ2棟は1926年に建ち、数寄屋風のサンルーム、アール・ヌーボー様式を取り入れたステンドグラスの応接室、ビリヤード室などがある。

4月からはフォルクローレコンサート、座敷舞いほか、見学会、茶会、狂言、コンサートなどが予定されている。詳しくは、旧庄屋屋敷保存活用会（吹田市内本町2-15-11・西尾邸内、TEL 06-6381-0001）へ。

## 「樋口文庫」開設

インテリアデザイン分野の第一人者として実践の場で、また教育の場で活躍した元・京都工芸繊維大学教授樋口治氏の遺族から大阪ガスインテリアデザインスクールへ、樋口氏の愛蔵書2350冊が寄贈された。書籍はインテリア、建築、美術、旅行など幅広い分野にわたる。

当スクールでは、昨年7月12日に「樋口文庫」と名付けスクールのサロンにコーナーを開設して、興味のあるすべての人々の閲覧をオープンにしている。

利用の詳細は、大阪ガスインテリアデザインスクール（TEL 06-6262-4089）へ。

## 英国ロマン主義絵画展―兵庫県立美術館―

英国の国立美術館ヴィクトリア＆アルバート美術館の優れたコレクションの中から油彩・水彩・素描など英国ロマン主義絵画の傑作116点が、兵庫県立美術館で展観されている。

主要出品作家は、ヘンリー・フューズリ、ウィリアム・ブレイク、トーマス・ガーティン、ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー、ジョン・コンスタブル、ジョン・セル・コットマン、サミュエル・パーマー、ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ、エドワード・バーン=ジョーンズ、オーブリー・ビアズリー、ポール・ナッシュ、グレアム・サザーランドなど。

会　期　2003年1月28日(火)～4月6日(日)
　　10:00～18:00（金・土は20時まで）
　　休館日毎週月曜日、月曜祝日の場合は開館
会　場　兵庫県立美術館・企画展示室



ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー（1775-1851）
《セント・マイケルズ・マウント、コーンウォール》

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
阪神電車岩屋駅下車徒歩8分
入場料　一般1,300円、大高生900円、中小生500円

## 第4回「人間サイズのまちづくり賞」受賞者決定―兵庫県―

兵庫県では、平成11年度から「人間サイズのまちづくり賞」として、安全・安心・魅力あるまちづくりに寄与した建築物や、顕著な功績のあった活動などを顕彰している。

今年度は平成14年6月3日から7月19日まで募集を行い、4部門で合計227件の応募があった。

審査委員会（委員長：堯天義久）で審査を行い、そのうち合計29件を、第4回「人間サイズのまちづくり賞」として顕彰した。

| 部門 | | 案件名 | 事業主等 | 設計者 | 施工者 |
|---|---|---|---|---|---|
| まちなみ・景観部門 | | 沢の鶴資料館 | 沢の鶴㈱ | ㈱黒田建築設計事務所 | ㈱大林組 |
| | | 宝塚市立西公民館・西図書館 | 宝塚市 | ㈱宮本工務設計事務所 | ㈱竹中工務店 |
| | | 龍野市浦川修景 | 龍野市 | ――― | 山陽建設工業㈱ |
| | | 山中医院 | 医療法人社団 山中医院 | ㈱玉垣建築設計事務所 | 宮藤建設㈱ |
| | | 豊岡市立図書館 | 豊岡市 | ㈱小河建築設計事務所 | 三井建設㈱ |
| 建築部門 | 小規模 | 波豆川浄化センター | 三田市 | 日本技術サービス㈱ | ㈱神崎組 |
| | | 住吉屋歴史資料館御用地館 | 竹野町 | アトリエサワ | ㈱中川工務店 |
| | | 関邸 | 関　脩 | 神家昭雄建築研究室 | ㈱川嶋建設 |
| | | 南淡リフレッシュ交流ハウス“ゆーぷる” | 南淡町 | ㈱昭和設計 | ㈱森長組 |
| | 大規模 | 灘浜ガーデンバーデン | ㈱神戸製鋼所 | 安藤忠雄建築研究所 | ㈱竹中工務店 |
| | | 酒ミュージアム 酒蔵館 | 辰馬本家酒造㈱ | ㈱大林組 | ㈱大林組 |
| | | 播磨町立蓮池幼稚園・保育園・子育て支援センター | 播磨町 | ㈱安井建築設計事務所 | ㈱ソネック<br>㈱國崎土建 |
| | | イーグレひめじ | お城本町地区市街地再開発組合 | ㈱梓設計 | 西松建設㈱ |
| | | さとの湯 | 城崎町 | ㈱天藤建築設計事務所 | 大鉄工業㈱ |
| 福祉部門 | 施設 | 神戸ウイングスタジアム | 神戸市 | 大林・神鋼設計業務共同企業体 | 大林・神鋼建設事業共同企業体 |
| | | 阪神電車 岩屋駅 | 阪神電気鉄道㈱ | 中央復建コンサルタンツ㈱ | 大林組・ハンシン建設共同企業体 |
| | | 宝塚福祉コミュニティプラザ | (財)プラザ・コム | ㈱日本設計関西支社<br>㈱アイ・エフ建築設計研究所 | 鹿島建設㈱関西支店 |
| | | 地域福祉総合センター いたみいきいきプラザ | 伊丹市 | ㈱宮本工務設計事務所 | ㈱染の川組 |
| | | ゆめのくにこうえん | 東条町 | ㈱都市環境計画研究所 | ㈱中西総合ガーデン<br>㈱京阪神グリーン |
| | | 洲本市健康福祉館 | 洲本市 | ㈱昭和設計 | 淡路土建㈱ |
| | 隼 | 神子畑いろりハウス | 朝来町 | 第一建築設計事務所 | ㈲中山建築 |
| まちづくり活動部門 | 団体名 | 大日通周辺地区まちづくりを考える会<br>甲子園一番町自治会まちづくり検討会<br>中村町むらづくり協議会 | 岩座神棚田の里づくり委員会<br>大手前通り街づくり協議会<br>かじょう会 | 日高町花と緑の協会<br>なんたんまちなみたんてい団 | |

日本建築協会

# 月間の動き

【平成14年12月分】

## 正・副会長会議

第2回正・副会長会議
12月13日（金）15：50～16：40
出席者　金多会長ほか3名
議　事　（1）協会財政について
（2）今後の方針について
（3）その他

## 理事会

第6回常任理事会
12月13日（金）15：00～15：40
出席者　金多会長ほか7名
議　事　（1）平成14年度収支予算執行状況
（2）各常設委員会事業の報告
（3）常設委員の応募について
（4）後援・協賛名義の使用について
（5）ホームページの掲載内容について
（6）その他

## 編集委員会

第9回編集委員会
12月11日（水）18：00～20：00
出席者　設楽委員長ほか5名
議　事　（1）15年1月号「東畑建築事務所創立70周年」特集経過報告
（2）15年2月号「九州」特集経過報告
（3）15年3月号「東海支部会員作品」特集・「愛知・名古屋―文化、産業と建築を振り返る」特集経過報告
（4）15年4月号「サスティナビリティに向けて―次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン―」特集経過報告
（5）15年8月号設備特集の企画
（6）15年1月号～12月号表紙改訂案検討
（7）収支状況報告

第4回計画分科会―計画系―
12月2日（月）19：00～21：30
出席者　鈴木幹事ほか3名
議　事　4月号計画特集の企画

第9回設備分科会
12月3日（火）18：00～19：45
出席者　河井幹事ほか4名
議　事　（1）「研究最前線を追う」の企画
（2）「設備の頁」の企画
（3）8月号設備特集のテーマの検討

第9回法令分科会
12月4日（水）16：00～18：00
出席者　薄木幹事ほか5名
議　事　（1）「法令コーナー」の企画
（2）法令特集の企画

第10回構造分科会
12月6日（金）18：00～19：30
出席者　田渕幹事ほか2名
議　事　「構造の頁」の企画

第9回広告企画小委員会
12月11日（水）16：00～17：30
出席者　設楽委員長ほか7名
議　事　（1）1月号「東畑建築事務所創立70周年」特集経過報告
（2）2月号「九州」特集経過報告
（3）3月号「東海支部会員作品」特集・「愛知・名古屋―文化、産業と建築を振り返る」特集経過報告
（4）作品作風関係報告
（5）広告掲載の拡大について
（6）平成15年度独自特集企画、広告企画小委員会特集企画
（7）収支状況報告

第9回作品作風小委員会
12月12日（木）18：30～19：30
出席者　倉渕副委員長ほか10名
議　事　（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定

第8回施工材料分科会
12月26日（木）17：00～19：00
出席者　竹中幹事ほか3名
議　事　特集企画

## 出版委員会

第8回出版委員会　　於　大臣会議室
12月19日（木）18：00～18：50
出席者　中川副委員長ほか8名
議　事　（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
（3）第26回〈プロのノウハウ〉講座開催の件

## 教育委員会

第2回工高生教育小委員会
12月5日（木）18：00～18：45
出席者　片倉・和田正副委員長ほか9名
議　事　（1）第48回工高生デザインコンクール実施報告
（2）次年度第49回工高生デザインコンクール募集規定の件

## 建築関係団体合同忘年懇親会

2002年建築関係団体合同忘年懇親会　　於　太閤園
12月13日（金）18：00～19：30
参加者　241名

## 入会者（敬称略）

［個人会員］
田井　秀一（昭和設計）　　加藤　一枝（晴ハレ住環境設計）

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社　☎06—6448—5851(代)　名古屋支店　☎052—211—1535(代)　中国支店　☎082—247—5541
九州支店　☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和
給排水衛生
搬送機設備
設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530-0047 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話 06-6364-6661（代表）
本　　社　〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話 03-3311-8511（代表）

空気調和設備
給排水設備
電気設備

産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　宅　清光
常務取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル　電話 06(6350)8100
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071 大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628(代表)
本　　社　〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441(代)
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

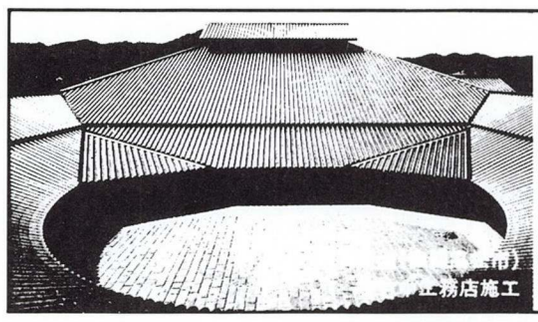
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・南九州・名古屋・上海

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡



〒556-0024
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 六五六一～七四一六
ファックス 六五六一～七四五四

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689—2351代表

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

本　　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長 上田正雄
本社 大阪市北区堂島浜1—4—19（日土地堂島ビル）
電話 06（6442）3671（代）
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03（3666）1478（代）
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 髙橋幸久
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(6202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代) FAX 06(6385)1050

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-1-10 TEL.06-6352-7502 FAX.06-6355-2714
制作部 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19 TEL.06-6352-0943 FAX.06-6355-5533
印刷工場 〒530-0043 大阪市北区天満2-5-15 TEL./FAX.06-6352-1551

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材） コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材） 鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント） コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材） 地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材） コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

日本建築協会出版委員会企画
新刊書籍発行／会員特価販売のご案内

企画・日本建築協会

Ａ５判・並製・176頁
定価：本体2,200円＋税

渡辺邦夫著
構造設計集団SDG代表

**建築構造界の第一人者が語る待望の書**

# 飛躍する構造デザイン

第１章　「構造学」の創始者たち
第２章　「構造デザイン」の意味
第３章　ＰＣと集成材の構造
第４章　スペースフレームへの挑戦
第５章　鉄とガラスの可能性
第６章　開閉式ガラス屋根
第７章　ＰＣとテンション構造のスタジアム
終　章　ブラックボックスからの脱出

「構造デザイン」とは何か、その考え方、手法について紹介するのがこの本の目的である。個々の建築の固有の構造上の性格を引き出し、空間に、秩序を与え、技術工学を駆使しながら全体と部分との確かな統合を図る、それが「構造デザイン」である。そこに、新たな空間、飛躍するデザインを生み出す唯一の可能性が秘められている。

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811　fax 075-343-0810

日本建築協会会員の皆様に特別価格 **本体価格の１割引＋税** にてご提供いたします。
※送品手数料は２冊まで300円、３冊以上は無料とさせていただきます。

ご注文書籍の送付・請求等につきましては、学芸出版社より行いますのでお含み願います。

（FAX 送信先 075-343-0810）

お申し込み書（コピーの上、ご使用ください）

| 書　名 | 本体価格 | ご注文冊数 |
|---|---|---|
| 飛躍する構造デザイン | 2,200 円 | 冊 |
| 建物の汚れ　トラブル事例と解決策 | 3,500 円 | 冊 |
| 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築編〉 | 4,000 円 | 冊 |
| 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備編〉 | 4,000 円 | 冊 |
| 木造住宅のしくみ | 2,200 円 | 冊 |
| 鉄骨工事の現場学 | 2,300 円 | 冊 |
| 鉄筋工事・本音の現場学 | 2,200 円 | 冊 |
| 建築と音のトラブル | 2,300 円 | 冊 |
| 空調設備のトラブル 50 | 2,300 円 | 冊 |
| 衛生設備のトラブル 50 | 2,300 円 | 冊 |
| 新版　コンクリート工事のチェックポイント 100 | 2,400 円 | 冊 |
| 躯体工事監理のチェックポイント 100 | 2,200 円 | 冊 |
| 仕上工事監理のチェックポイント | 2,200 円 | 冊 |
| （本体価格×ご注文冊数×90%×1.05＝） | 合計（税込）　円 | 冊 |

【送本先：勤務先／自　宅】　【請求先：勤務先／個人名】　【日本建築協会：会　員／非会員】　（いずれかに○を）

| | |
|---|---|
| お名前 | |
| 送　本　先 | 〒□□□-□□□□ |
| 送本先のTEL&FAX | TEL　-　-　FAX　-　- |

送料は２冊まで300円、３冊以上は無料




100年をつくる会社　鹿島建設株式会社　関西支店　TEL.06-6536-3311（大代表）　http://www.kajima.co.jp/

防犯ガラス **ハイレンド**



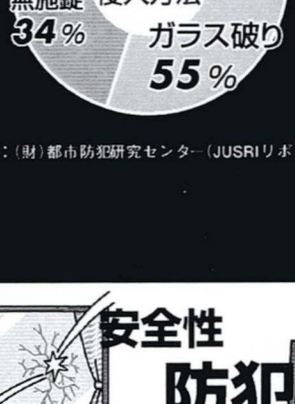
# あつ ガラスが 狙われている。

ガラスの防犯性能を高めることは、空き巣の侵入防止に効果的です。



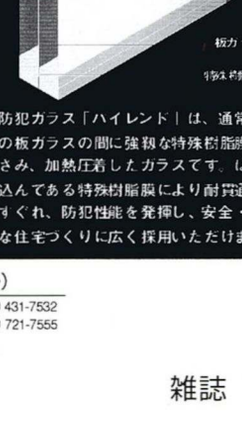

出典：(財)都市防犯研究センター(JUSRIリポート)

空き巣の55%がガラス破りによって侵入しています。




出典：(財)都市防犯研究センター(JUSRIリポート)




防犯ガラス「ハイレンド」は、通常2枚の板ガラスの間に強靭な特殊樹脂膜をはさみ、加熱圧着したガラスです。はさみ込んである特殊樹脂膜により耐貫通性にすぐれ、防犯性能を発揮し、安全・安心な住宅づくりに広く採用いただけます。

セントラル硝子株式会社

本社 101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1（興和一橋ビル）

●仙台支店 ☎(022) 239-9120 ●硝子営業部 ☎(03) 3259-7412 ●名古屋支店 ☎(052) 431-7532
●大阪支店 ☎(072) 224-8461 ●広島営業所 ☎(082) 228-0531 ●福岡支店 ☎(092) 721-7555

社団法人 日本建築協会 〒530-0014 大阪市北区鶴田1-6-20 電話大阪06(6348)0630 FAX06(6348)0664 http://www.aij.or.jp
定価1,200円（●本体1,143円●消費税57円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収
雑誌 03379-2